

平成 27 年度

# 「基礎学力調査」

— 分析・考察 —

平成 27 年 10 月  
石川県教育委員会

# 目 次

本書の構成	1
1 教科に関する調査について	
2 質問紙調査について	
<b>I 教科に関する調査結果の分析・考察</b>	<b>3</b>
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	12
《小学校第6学年 社会》	20
《中学校第3学年 社会》	28
《中学校第3学年 英語》	34
<b>II 質問紙調査結果の分析・考察</b>	<b>41</b>
1 小学校第4学年児童の調査結果	43
2 学習・生活状況と正答率との関係	50
3 教員の調査結果	52

# 本書の構成

## 1 教科に関する調査について

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号, 用語
90%を上回っている場合	◎：良好である
80%～90%の場合	○：概ね良好である
70%～80%の場合	◇：基準に到達している
60%～70%の場合	▽：十分とはいえない
60%を下回っている場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び今後の指導の方向性
- ・「指導改善のポイント」

### (3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号, 領域・分野, 出題の狙い, 評価の観点 ・関連問題 ・正答例, 誤答例, 正答率, 誤答率, 無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年, 単元 (指導内容等) ・指導の狙い ・具体例

- ・関連する「いしかわ学びの指針12か条」の項目を次のように示す。

学びの指針 ○

## 2 質問紙調査について

### (1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較, 学年間比較

### (2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

### (3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果





# I 教科に関する調査結果の分析・考察



小学校 第4学年  
「国語」「算数」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

27年度の平均正答率は67.7%で、26年度と同様、十分とはいえない。明確な理由を持って、話すことの構成や内容、話し方を工夫することに課題が見られることや、説明的文章において段落相互の関係を考えながら読むことに依然として課題が見られることなどが要因である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと (47.8%)】

▼：相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道立てて話すこと【一1、一3(2)】

設問一1・一3(2)の正答率は、それぞれ55.1%・21.2%で不十分である。設問一1では、「発表する話題」と「しりょうのしょうかい」を取り違えた誤答が多かった。設問一3(2)では、発表

設問番号	問題の内容	正答率	
一	1	発表の組立て	55.1%
	3(2)	発表の工夫(話すことの構成・内容)	21.2%

の冒頭で聞き手に問いかけることのよさを、「これから話す内容が分かりやすくなる」と捉えた誤答が多かった。26年度に引き続き、発表の組立てや話し方を工夫することのよさについての理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、次の点について十分に指導する必要がある。

- ・発表メモや発表原稿の作成を通して、理由や事例などを挙げた筋道立った発表にするための構成の工夫や、問いかけや呼びかけを入れるなどの話し方の工夫をさせること
- ・発表のモデルを示し、「なぜ、その話し方の工夫がよいのか」に気付かせること

(H26「分析・考察」事例1 参照)

▼：相手を見たり、間の取り方などに注意したりして話すこと【一2】

設問一2の正答率は38.6%で不十分である。「分かりやすいから」「聞きやすいから」等の誤答が多かった。間をとると、聞き手はなぜ分かり

設問番号	問題の内容	正答率	
一	2	発表の工夫(音声)	38.6%

やすくなるのか、聞きやすくなるのかということの理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、言語活動を通して、「間を取ること」等の工夫をした発表をさせ、その工夫のよさを理解させる必要がある。

【書くこと (67.0%)】

◇：相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にしながらかくこと【八1内容】

設問八1では、手紙の本文の中心として四つの内容を書くことを求めている。内容についての正答率は70.6%で基準に到達しており、条件・表記とともに、26年度の正答率を上回っている。言語活動を通して、書こうとすることの中心を明確にし、相手や目的に応じて書くことについての指導が充実してきたことによるものと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
八	1内容	相手や目的に応じて中心を明確にした書き方(内容)	70.6%

(H23「分析・考察」事例1 参照)

▽：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと【八2】

設問八2の正答率は66.9%で十分とはいえない。無解答率が16.2%と高く、「ふさわしくない言葉づかひの一文」を見付けられていない誤答が多かった。文末を敬体又は常体に統一することについての理解が不十分であると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
八	2	敬体に統一した、よりよい表現	66.9%

指導に当たっては、言語活動を通して、相手や目的に応じて敬体と常体を使い分けて書かせるとともに、自分の書いた文章を読み返して文末表現の統一を確認する習慣を付けさせる必要がある。

## 【読むこと (70.2%)】

### ◎：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読むこと〔二1〕

設問二1の正答率は91.3%で良好である。  
 今後も、目的に応じて、文章の中心となる事柄を捉えながら読むことを指導する必要がある。

設問番号	問題の内容	正答率
二 1	説明的文章の内容理解	91.3%

### ▼：中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら読むこと〔二2〕

設問二2の正答率は24.9%で不十分である。複数の段落をまとまりとして捉えていない誤答や、接続語だけに着目して内容を分けてしまった誤答が多かった。中心となる語である「食べ物」や「てき」に着目し、複数の段落をひとまとまりと見て内容を捉えることができなかったことが要因と考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
二 2	段落相互の関係	24.9%

- 指導に当たっては、適切な言語活動を設定し、次の点について段階的・継続的に指導する必要がある。
- ・中心となる語や文に着目して、「はじめ・中・終わり」の文章構成を捉えさせること
  - ・中心となる語や文に着目して、各段落の要点をまとめさせたり小見出しを付けさせたりすること
  - ・段落相互の関係を考えながら、まとまりごとに要約させること (H25「分析・考察」事例1 参照)

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (72.9%)】

### ▽：主語と述語とを照合すること〔四〕

設問四の正答率は62.9%で十分とはいえない。また26年度より10.2ポイント下回っている。一文節目の「おじいさんの」を主語とした誤答が多かった。「主語は文頭に位置する」「人や動物を表す語句が主語になる」といった誤った認識にとらわれたことが要因と考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
四	主語（トマトが）・述語（実った）	62.9%

- 指導に当たっては、次の点について段階的・継続的に指導する必要がある。
- ・低学年では「主語」「述語」の用語に慣れさせるとともに、文の中から主語と述語を見付けさせること
  - ・中学年以降では修飾と被修飾の関係による文の構成について理解させ、主語と述語の照応関係を捉えさせること
  - ・主語が「物」であったり文の後半に位置したりする文についても、主語と述語の照応関係を捉えさせること (H18「指導資料集」指導事例2, H19「指導資料集」指導事例2 参照)

### ◇：日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読むこと〔七〕

設問七の正答率は、これまでの継続的な指導が成果として現れ、今年度は基準に到達している。  
 指導に当たっては、引き続き次の点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	正答率
七	① ローマ字の読み (kingyo)	71.4%
	② ローマ字の読み (ISHIKAWA)	77.8%

- ・掲示物などを活用し、大文字も読めるよう日常的にローマ字に触れる機会を増やすこと
- ・ローマ字の決まりや音の表し方、清音・濁音・半濁音・長音・拗音・促音の読み書きに慣れるよう、ローマ字を使う場面をできるだけ多く設けること
- ・ローマ字を書いたり、パソコンでローマ字による文字入力をしたりする場面を適宜設けること

## 指導改善のポイント

- 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと (→ 事例1)
- 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら文章を読むこと (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針1

ア 事例1

相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
一 2	話すこと・聞くこと	間の取り方などに注意して話すことができる。	・国語への関心・意欲・態度 ・話す・聞く能力

一 2 南さんは、分かりやすい発表にするために、【原こう】の二か所に、(間)と書き入れました。この二か所で少し時間をとると、なぜ分かりやすい発表になるのでしょうか。そのわけを、次の  に書きましょう。

正答例	誤答例	
みんなに、グラフ(しりょう)を見てもらう時間がとれるから。	分かりやすいから。	聞きやすいから。
正答率(準正答率) 38.6%(20.8%)	誤答率 55.3%	無解答率 6.1%

② 指導改善に向けて

「間をとること」のよさについての理解が不十分であると考えられる。「相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと」等について、そのよさに気付かせたり、よさの理由を理解させたりする学習活動の機会が少ないことによるものと考えられる。

指導に当たっては、発表の工夫について教師が一方的に提示するのではなく、言語活動を通して児童自身がその工夫のよさに気づき、実感できるようにさせる必要がある。そのためには、「どんな工夫を」「どこに」「なぜ」取り入れるのかを考えさせた上で発表メモや発表原稿などを作成させ、それを基に発表させることが大切である。

③ 改善事例 第3学年『つたえよう、楽しい学校生活』 光村三年上

1 指導の狙い

- ・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと (話すこと・聞くことウ)
- ・互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合うこと (話すこと・聞くことオ)

単元を貫く言語活動：  
学習発表会で、学校生活の中で一番伝えたいことをお家の人達に向けて発表する

単元計画	①単元の見通しを持つ	◇お家の人達を招待しての学習発表会を開こう グループごとに発表しよう
	②発表の準備をする (グループ活動)	◇発表する話題と内容を話し合っ決めてよう ◆発表の話し方を工夫しよう ◇発表の練習をしよう
	③学習発表会を開く	◇お家の人達に向けて発表しよう
	④振り返りをする	

2 具体例 ◆発表の話し方を工夫しよう

☆事前準備 授業者は、【資料】を参考にして、発表の工夫をした「発表ビデオA」と、発表の工夫をしていない「発表ビデオB」を作成しましょう。

(1) 「発表ビデオA・B」を基に発表の工夫を見付け、『発表名人の技』として整理する

【資料】授業者が作る「発表ビデオA」の台本(例)

みなさんは、音楽発表会について知っていますか。(見る)

毎年一学期に行われる音楽集会は、ぼくたちが成長できる行事です。学年で心一つにして、全校の前で歌を披露します。

ぼく達の学年は、「○○」を歌いました。○○さんが指揮、△△さんがピアノを弾きました。こちらが、その時の写真です。(間)

練習は、三週間前からします。初めは、みんなのことを考えず、心はばらばらでした。その時の歌声はひどいものでした。でも、練習を積み重ねていくうちに、みんな他の人の事を考えられるようになり、歌声もそれに伴ってきれいになっていきました。(見る)

(後略)

※発表の工夫

『強調』……………二重線

『間を取って』……………(間)

『相手の方を見て反応を確かめる』……………(見る)

『たずねるように』……………波線

ポイント1: 「発表ビデオA」と「発表ビデオB」を比較させ、発表の工夫とその効果に気付かせましょう。



「ビデオA」のいいところは？  
どうしてそこがいいのかな？

強く話しているところがあったよ。だから、特にその部分が心に残ったよ。



いいところを『発表名人の技』として整理しよう。

「知っていますか」とたずねていたよ。だから興味がわいたよ。

『発表名人の技(わざ)』

技『強調』

技『間をとって』

技『相手の方を見て反のうをたしかめる』

技『たずねるように』

課題 <自分達の発表では、どこにどの技を使うと、分かりやすくなるかな>

(2) 『発表名人の技』を発表メモに書き込む

ポイント2: なぜその技を使うとよいのか、理由をはっきりさせて話し合いをさせましょう。

技『強調』を使って、「活動するうちになかよくなれる」の部分が特に心に残るようにしよう。

「たてわり活動」でなかよくなれることを伝える発表にしよう。

技『たずねるように』を最初に入れて、興味を持ってもらおう。

「なかよくなれる」を話した後に、技『相手の方を見て…』を使おう。うなずいている人がいるといいな。



技『間を取って』を使って、ゆっくり写真を見てもらおう。

ずっと相手の方を見て話すのは難しいから、技『相手の方を見て…』をしっかり使おう。

『発表名人の技』をうまく使えば、分かりやすく発表できそうだ。

【発表メモ下書き(話し合い前)】

【発表メモ完成(話し合い後)】

楽しみにしている活動

なかよし遊び

写真を見せる

一ヶ月に一回している

何をして遊ぶかは、相談して決める

なかよしきゆう食

写真を見せる

学期に一回している

いつもよりおいしい活動するうちになかよくなる

「たてわり活動で、どんなことをしているか知っていますか」(見る)

楽しみにしている活動

なかよし遊び

写真を見せる(間)

一ヶ月に一回している

何をして遊ぶかは、相談して決める

なかよしきゆう食

写真を見せる(間)

学期に一回している

いつもよりおいしい活動するうちになかよくなる(見る)



イ 事例2

中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら文章を読むこと

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
二 2	読むこと	目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係を考え、文章を読むことができる。	・読む能力

二 2 池田さんは、【本】の3段落から7段落には、大きく三つの内容が書かれていることに気づきました。一つ目の内容は3段落に書かれています。二つ目・三つ目の内容が書かれている段落のすべての番号を、それぞれ  に書きましょう。

正答例		誤答例			
二つ目の内容	4・5	二つ目の内容	4	4・5・6・7	4
三つ目の内容	6・7	三つ目の内容	5・6・7	8・9	6
正答率（準正答率）		誤答率		無解答率	
24.9% (0.0%)		72.4%		2.7%	

② 指導改善に向けて

「また」「さらに」「こうして」という段落のはじめの言葉を基に文章構成を捉えようとしているが、中心となる語である「食べ物」や「てき」に着目して内容を捉えようとしていないことが窺える。また、複数の段落をひとまとまりと見て内容を捉えることができていないと思われる誤答も多かった。

指導に当たっては、言語活動を通して、既習を生かしながら中心となる語や文を捉えさせるとともに、文章構成と内容とを関連付けて読むことの必要性を実感させる必要がある。当該学年に出てくる説明的な文章についての学習において、これらのことを段階的・継続的に指導することが大切である。

③ 改善事例 第3学年 段階を踏んだ説明的な文章の学習

1 指導の狙い

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと（読むことイ）

2 具体例

『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』光村三年上及び関連図書

付きたい力：伝えたいことの中心となる語や文を捉えながら読む力  
言語活動：いちばん遊びたいこまを紹介する



気付かせポイント

- ・各段落に、各こまについての大切な言葉や文がある
- ・その言葉や文を見つけて使えば紹介できる

「はじめ・中・終わり」の「中」には、1つの段落で1つのこまが紹介されているね。

【紹介の仕方】「中」の段落の中から、紹介に使える言葉や文を見付けよう。



「中」の各段落には、それぞれのこまを紹介するための大切な言葉や文が入っているよ。その大切な言葉や文を見つけて使おうと、紹介できるね。

な う ふ の こ 思 ご  
と ゼ た も ま が い ま わ  
思 ん し く 回 し が 強 ま で  
い ま ぶ け 回 し と び 出 た し  
ま し 回 け ば こ 出 引 だ  
し て っ て ま し て い て み と  
み た す も で て 回 の だ  
たい つ す 中 の とし



【言語活動成果物モデル】



『すがたを変える大豆』『食べ物のひみつを教えます』光村三年下及び関連図書

付きたい力：段落相互の関係を考えながら読む力

段落相互の関係などに注意して文章を構成する力（書くことイ）

言語活動：食べ物に関する本を基に、「食べ物へんしんブック」を書く



「はじめ・中・終わり」の「中」には、大豆が9つの食品にすがたを変えることが書いてあったよ。

気付けポイント

- ・ 接続語に着目すると段落相互の関係が分かる
- ・ 段落も段落内の文も順番が工夫されている

順序を表す言葉に目を付けよう。1つの段落に書かれているくふうは1つだ。

【書き方】「はじめ・中・終わり」のまとまりを作ろう。

【書き方】「中」の段落1つにくふうを1つ書こう。

「中」の段落も、段落の中の文も、順番が工夫されているよ。



【書き方】「中」の各段落に、順序を表す言葉を使おう。

「中」の段落の順番や、それぞれの段落の文の書き方を参考にしよう。順序を表す言葉を入れて分かりやすくするといいね。



トウモロコシには、おいしく食べるためのいろいろなくふうがあります。いちばん分かりやすいのは、トウモロコシをその形のまま、ゆでて食べるくふうです。しおでゆでたものをやくと、やきトウモロコシになります。つぎに、トウモロコシのつぶをいって食べるくふうがあります。はじけるまでフライパンでいります。ポーンとはじけてからおをふると、ポップコーンになります。また、すりつぶして食べるくふうもあります。ゆでたトウモロコシをすりつぶしてこした後、生クリームや牛にゆるくくわえるとコーンスープになります。このように、トウモロコシはくふうされているのですね。



【言語活動成果物モデル】

『ありの行列』光村三年下及び関連図書

付きたい力：段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら読む力

言語活動：科学読み物を基に、生き物や植物についての

「ふしぎなるほど紹介文」を書く



「はじめ」には問いが、「終わり」には答えがあるね。



気付けポイント

- ・ いくつかの段落をひとまとまりとして読むと、筆者の考えの進め方が分かる

「中」は、いくつかのまとまりに分けられるよ。まとまりごとに小見出しを付けよう。

「中」をまとまりごとに読むと、筆者の考えの進め方が分かるよ。

【書き方】「はじめ」には問い、「中」には詳しい説明、「終わり」には答えと感想を書こう。

【書き方】ひとまとまりのことを説明するときは、段落の分け方を考えよう。

終わり 中② 中① はじめ

「こけのなかまのふやしかた」しめつた土のある場所にはこけが生えています。こけにはたねはできません。では、こけはどうやってなかまをふやすのでしょうか。

こけは、たねのかわりに、たねにたはたらきをする「ほうし」を作ります。ほうしは、「さく」というふうろにためられます。さくは、かわいた風がふいたときに開いて、ほうしをばらまきます。

こうして、ほうしは風にのって新しい場所に行き、なかまをふやすのです。

また、こけは、体のいろいろなところからめを出せることができます。だから、体の一部をばらまくと、そこからめを出してなかまをふやすことができます。

こけの体には、すぐにとれるこぶやひげなどがついています。そして、だれかの足のうらにくっついたり、雨に流されたりして、新しい場所にたどりつきます。

このように、こけは、風や雨やだれかの力を上手にりようして、なかまをふやすのです。

わたしは、こけの、なかまのふやし方が不思議なところにおどろきました。こけは、自分の体の一部をばらまくと、い

【言語活動成果物モデル】

いくつかの段落をまとまりで読むと、考えの進め方が分かるね。だから、いくつかの段落でひとまとまりになるように書くと、「なるほど」と思ってもらえる説明が書けるんだ。



(1) 全体的な傾向の分析・考察

27年度の平均正答率は72.2%で、26年度より5.5ポイント上回り、基準に到達している。「数と計算」領域の四則計算や他領域の短答式の間いは概ね良好である。しかし、与えられた条件を基に筋道を立てて考えることや表から必要な情報を読み取り表現することに課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算 (81.0%)】

◎：基本的な四則計算をすること〔1〕

設問1の正答率は概ね90%を上回っており、基本的な四則計算については、良好である。

今後も、計算の意味や計算の仕方に関連付ける学習を行うとともに、基礎的・基本的な計算の技能の習得・習熟に繰り返し取り組むことで、確実に身に付けられるようにすることが大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1) 波及的繰り上がりのある加法計算	95.9%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	88.6%
	(3) 小数(1/10)+小数(1/10)	96.6%
	(4) 余りのある除法計算	89.9%
	(5) 整数-分数	94.8%
	(6) 3位数×2位数の筆算	86.0%

◇：根拠を明らかにした判断理由の説明ができること〔10(2)〕

設問10(2)の正答率は72.3%で、26年と比較して43.6ポイント上回っており、基準に到達している。要因は、根拠を明らかにして表現させる指導の成果が現れ、理由を記述する際に必要な数値(ベッドを置いた残りの長さ、本棚の長さ等)や言葉(数値の大小比較)を捉えているためと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
10(2)	根拠を明らかにした判断理由の説明	72.3%

今後も、次の点を充実させることが必要である。

- ・判断理由を答えさせる際には、根拠となる数値や事柄を引き出すような指導の工夫をすること
- ・児童の表現を的確に評価し、必要な事柄を補わせる指導を行うこと (H25「分析・考察」事例1 参照)

【量と測定 (56.7%)】

○：全体・容器・正味の重さの関係を読み取ること〔5(2)〕

設問5(2)の正答率は85.5%で、概ね良好である。要因は、数量の関係を図に表す活動の充実が図られてきたことにより、「正味の重さ」=「全体の重さ」-「容器の重さ」という三つの量の関係を正しく捉えているためと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
5(2)	全体・容器・正味の重さの関係の読み取り	85.5%

今後も、数量の関係をテープ図等に表す活動を設定し、事象の構造を明らかにしてから問題解決に取り組むよう指導することが大切である。

(H25「分析・考察」事例2 参照)

▽：複数の条件全てに当てはまる時間の判断をすること〔5(3)〕

設問5(3)の正答率は61.1%で、十分とはいえない。与えられた複数の条件を基に筋道を立てて考えることに課題がある。

設問番号	問題の内容	正答率
5(3)	複数の条件全てに当てはまる時間の判断	61.1%

指導に当たっては、次の点を充実させることが必要である。

- ・文章中の条件を抜き出すなど、問題解決のために必要な条件を明確にして整理する活動を設定すること
- ・複数の条件を一度に扱うのではなく、条件を一つずつ図に表して確認する指導を行うこと

### ▼：量の単位の関係を理解すること〔5(1)〕

設問5(1)は26年度に引き続き出題されたが、正答率は23.6%で、不十分である。誤答には、単位に着目して単位換算をしなかったことによるものや単位換算の処理を誤ったりしたことによるものが多く、改善が見られない。

設問番号	問題の内容	正答率
5(1)	量の単位の関係	23.6%

指導に当たっては、次の点を徹底させることが必要である。

- ・量の単位の関係について理解を深め、単位換算の技能を確実に定着させる指導を行うこと
- ・答えの見通しを持ち、導き出した結果について振り返って確かめる活動を設定すること

(H26「分析・考察」事例2 参照)

### 【図形 (63.7%)】

#### ◇：直方体の辺と球の直径を関連付けること〔10(1)〕

設問10(1)の正答率は73.9%で、22年度の設問に比べ、6.8ポイント上回り、基準に到達している。要因は、直方体の縦・横の長さ、球の直径の関係を捉えることができているためと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
10(1)	直方体の辺と球の直径の関連付け	73.9%

今後も、次の点を充実させることが必要である。

- ・具体物を操作しながら問題解決する活動などを通して、他の図形の特徴と関連付けながら指導を行うこと

### 【数量関係 (65.2%)】

#### ▽：二つの数量の倍関係を表した図を理解すること〔3(2)〕

設問3(2)の正答率は61.6%で、25年度の設問に比べ、16ポイント上回ってはいるが、十分とはいえない。場面と図を関連付けて、二つの数量の関係を捉えることに課題が見られる。特に基準とする量を求める場合に顕著である。

設問番号	問題の内容	正答率
3(2)	二つの数量の倍関係の図	61.6%

指導に当たっては、次の点を充実させることが必要である。

- ・「倍」の表現を含む文章から、図に表すなどの工夫により、「何の何倍が何である」といった数量関係を適切に捉える指導を行うこと

(H24「分析・考察」事例2 参照)

#### ▼：簡単な2次元表の数値の意味を読み取ること〔4(1)〕

設問4(1)の正答率は55.5%で、26年度の設問に比べ、7.6ポイント下回り、不十分である。誤答の多くが、数の意味を二つの観点(組・種類)と単位(冊)に着目して読み取れていないことや、表の中の言葉を用いての表現ができておらず、課題が見られる。

設問番号	問題の内容	正答率
4(1)	簡単な2次元表の数の意味の読み取り	55.5%

指導に当たっては、次の点を充実させることが必要である。

- ・資料を分類整理し、表に表す活動や表を考察する活動を設定すること
- ・2次元表の中の数の意味を読み取る際は、必要な事柄を補わせる問い返しにより、表の中の言葉を用いた適切な表現へと洗練する指導を行うこと

### 指導改善のポイント

□情報を整理し、与えられた条件を基に筋道を立てて考えること (→ 事例1)

□目的に応じて表やグラフから必要な情報を読み取り、適切に表現すること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 1

ア 事例1  
情報を整理し、与えられた条件を基に筋道を立てて考えること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
5(3)	量と測定	複数の条件全てに当てはまる時間を判断することができる。	・数学的な考え方

(3) あきらさんのクラスでは、とれたさつまいもで料理を作って食べるパーティーの計画を立てています。

右の話合ったことをもとに、プログラムの②料理を作る時間を正しく表した図を、次のア～エから1つえらび、□に記号を書きましょう。

**話し合ったこと**

〈パーティーのプログラム〉

- ・じゅんぴをする
- 9時30分 会を始める
- ①あいさつ・作り方の説明を聞く(20分間)
- ②料理を作る
- ③食べる(20分間)
- 11時20分 会を終わる
- ・あとかたづけをする

正答例		誤答例	
・イ		・エ ・その他	
正答率 (準正答率)	61.1%	誤答率	38.2%
		無解答率	0.7%

② 指導改善に向けて

5(3)については、与えられた複数の条件を基に筋道を立てて考えることに課題がある。誤答としては、「エ」が多く、「会を終わる」時刻から「食べる」ために必要な時間を戻した時刻が料理を作り終える時刻であるということが捉えられていない。個々の条件から分かる2つの事柄のうち1つの事柄しか考慮できなかったことが誤答の要因として考えられる。

指導に当たっては、問題場面の情報を整理し、複数の条件を全て考慮して筋道を立てて考えることが大切である。その際、必要な条件に着目させ、児童に解決の見通しを持たせる必要がある。そして、必要な情報を一つ一つ図にかき表す活動を設定するなどして整理し、条件から分かる事柄をもれなく明らかにすることを通して、筋道立てて考え判断できるようにする。

また、問題の解決に必要な条件を全て考慮できているか振り返り、条件と照らし合わせて答えを確かめる活動の設定が大切である。



③ 改善事例 第3学年「時刻と時間」

1 指導の狙い

複数の条件に当てはまる時間を，解決の見通しを持って図に表すことで判断することができるようにする。

2 具体例 <お店の見学時間はどれだけとれますか？>

解決に必要な条件と必要な条件から分かる事柄を一つ一つ図に表す活動

(お店たんけんの計画)

9時 学校を出る (歩く 30 分間)

9時 30分 お店につく

- ・店長の話を聞く (30 分間)
- ・**お店の見学をする**
- ・店長に質問をする (30 分間)
- ・お店を出る(歩く 30 分間)

12時 学校につく

いつ見学が始まるのかな？

店長の話の終わりの時刻は 9 時 30 分から 30 分間店長の話を聞いたら…

いつ見学が終わるのかな？

質問の時刻が分からないから，見学の終わりの時刻が求められないよ。

でも，お店を出る時刻なら，学校に着く時刻から 30 分引けば，分かるわ。

同じようにお店を出る時刻から，あと 30 分引けば質問の始めの時刻が分かるよ。

② 12 時の 30 分前は 11 時 30 分ね。

③ 11 時 30 分の 30 分前は 11 時よ。

④ 見学の時間は 1 時間だ！

全ての条件に当てはまっているか，確かめよう！

条件を一つ一つ図に表すことで，判断できるようにしましょう。

与えられた条件を基に順序立てて考える活動

第1学年

「条件に当てはまる二桁の数を考える」

- ① 20 より大きい
- ② 30 より小さい
- ③ 答えの一の位は 6

第2学年

「条件に当てはまる九九の答えを考える」

- ① 6 の段
- ② 答えの一の位は 8
- ③ 40 より小さい

① 6 の段	$6 \times 1 = 6$	↑	③ 40
	$6 \times 2 = 12$		
	$6 \times 3 = 18$		
② 答えの一の位が 8	$6 \times 4 = 24$		
	$6 \times 5 = 30$		
	$6 \times 6 = 36$		
	$6 \times 7 = 42$		
	$6 \times 8 = 48$		
	$6 \times 9 = 54$		

18!

第3学年

「条件に当てはまる図形を考える」

- ① 直角がある
- ② 辺の長さが全て等しい

イ 事例 2

目的に応じて表やグラフから必要な情報を読み取り、適切に表現すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4(1)	数量関係	簡単な2次元表の数値が表す意味を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な考え方</li> <li>・ 数量や図形についての技能</li> </ul>

4 右の表は、図書館で4月に、1組、2組、3組の人たちがかりた本の数をしゅるいごとに調べたものです。次の問いに答えましょう。

4月にかりた本の数調べ(さつ)

しゅるい \ 組	1組	2組	3組	合計
物語	8	12	10	30
科学	8	10	9	27
図かんじてん	4	6	5	15
その他	5	3	4	12
合計	25	31	28	84

(1) この表の  は、何を表していますか。表の中の言葉を使って  に書きましょう。

正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3組の人たちがかりた科学の本の数。</li> <li>・ 4月に、3組の人たちがかりた科学の本の数が9だということ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3組は科学を9さつかりている</li> <li>・ 「本の数」が「人の数」になっている</li> <li>・ 3組の科学の数</li> </ul>	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
55.5%(0%)	41.3%	3.2%

② 指導改善に向けて

4(1)については、2次元表の数が表す意味を二つの観点「組」「種類」と単位「冊」に着目して読み取り、「どの組の人たちか」「何の種類の本か」「本の数」について、表の中の言葉を用いて表現することに課題がある。誤答例からも、二つの観点については「3組の科学」、単位については「人の数」や「科学の数」等のように、二つの観点と単位について正しく着目し適切に表現できていないことが分かる。

表の指導に当たっては、身の回りにある事象について目的に応じて観点を決め、分類整理し、資料を表に表す活動や表を考察する活動を設定することが大切である。表を考察する際の指導においては、表の中に示された数の意味について読み取る活動を取り入れることが考えられる。

2次元表の数の意味を読み取る活動において、二つの観点に着目できていない児童に対しては、必要な事柄に気付かせ補わせる活動など、表の中の言葉を用いた適切な表現へと洗練する指導が求められる。また、数の単位に着目できていない児童の表現に対しては、その数が何を意味しているのか問い返したり、他の人に分かりやすく伝える活動を取り入れたりとしながら、数の単位を基に表現することの必要性を理解できるように指導することが求められる。

③ 改善事例 第3学年「表とグラフ」

1 指導の狙い

目的に応じて表やグラフから必要な情報を読み取り、適切に表現することができるようにする。

2 具体例 〈表からどのようなことが分かるかな?〉

(1) 表の数の意味を読み取る活動



保健係が、1学期に学校でけがをした人数を、けがの種類と場所で表にまとめました。この表を使って学年のみなさんに注意をよびかけようと思います。

◇表の中の数を観点や単位に着目して読み取る



「10」は何を表しているのかな?

運動場でけがをした人?

「10」で分かるのは、それだけかな?

けがの種類や単位も分かるよ。

「10」は運動場で打ぼくをした人数よ。



けがをした人の数調べ (人)

	教室	運動場	ろうか	合計
すりきず	7	9	7	23
切りきず	3	5	4	12
打ぼく	5	10	6	21
その他	6	8	7	21
合計	21	32	24	77

◇合計の数に着目して読み取り、考えを表現する

けがをした人数が多いのはどこかな?



表のどこを見ると、何が分かるのかな?

けがをした人全部の合計

は77人だね。中でも、一番けがが多い場所は…



表を横に見ると、けがの種類別の合計人数が分かるよ。縦に見ると、けがをした場所別の合計人数が分かるよ。

場所ごとの合計を見ると32が一番多いね。だから、32人がけがをした運動場が一番けがの多い場所とわかります。

みなさんの中でけがをした人の合計は77人です。そのうち、運動場でけがをした人の合計は32人で一番多いです。運動場で遊ぶときにはけがをしないように十分気を付けて下さい。



言葉を補う問い返しや表を使う活動を設定し、適切な表現へと洗練させましょう。

(2) 表とグラフを対応させる活動

表から、けがをした場所の2カ所をグラフで表しました。どこでけがをした人数を表したグラフでしょうか?



Bは運動場でけがをした人数を表したグラフだと思います。

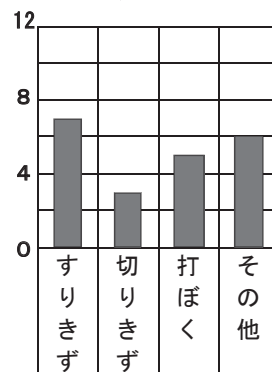
どうしてそう思ったの、わけを言って?

打ぼくをした人数が一番多いのは、表で見ると運動場だからです。

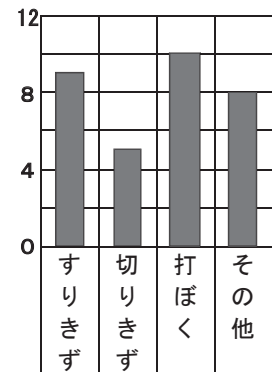
Aは教室でけがをした人だとわかります。すりきずをした人数が7人なのは、教室もろうかもだけど、次の切りきずのところを見ると、3人なのは教室です。



Aでけがをした人数調べ (人)



Bでけがをした人数調べ (人)



グラフの特徴で比べたり、数値を読んだりすると分かりますね。



グラフの数値を読み取って、2次元表とグラフを対応させましょう。







# 小学校 第6学年

## 「社会」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

27年度の平均正答率は71.9%で、26年度より0.6ポイント下降したが、基準に到達している。領域・分野別では、「産業と国土」の正答率が4.2ポイント上昇した一方で、「地域学習」の正答率が6.7ポイント下がった。地図帳から必要な情報を読み取る設問は概ね良好であることから、地図帳を活用した学習は定着してきたと思われる。しかし、資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察したり、考察したことを表現したりする設問は依然として不十分である。そのため、情報を比較・関連付けて、社会的事象の意味を考え、表現することについて、授業での継続的な指導が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習 (69.2%)】

◎：水の使用量変化のグラフや、節水の工夫について考察したことを表現すること〔3(2)(3)〕

設問3(2)(3)の正答率は、いずれも90%を超えており、2つのグラフから全体の傾向を読み取ることや、既習や生活経験を基に自分の考えを表現することについては良好である。引き続き資料の丁寧な読み取りや、考えたことを自分の言葉で表現させる活動を意図的に行っていくことが大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
3	(2) 人口と水の使用量の関係	95.5%
	(3) 節水の工夫	91.6%

◇：地図帳から必要な情報を取り出したり、方位や実際の距離を求めたりすること〔1(1)(2)(3)〕

設問1(1)(2)の石川県の自然や地形、伝統的な産業、周りの県の位置など、地図帳を使って必要な情報を読み取ったり、二つの地点間の距離を求めたりする問題では、正答率が70%を超えており基準に達している。

引き続き、地図帳を使用する学習活動を意図的に取り入れ、地図や資料の見方、活用方法など基礎的・基本的な技能の確かな定着に向けた指導法の工夫が大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1)① 石川県の自然や地形 (金沢平野)	88.7%
	(1)② 石川県の産業 (山中漆器)	70.2%
	(1)③ 石川県に隣接した県 (富山県)	93.4%
	(2) 縮尺と実際の距離	74.7%
	(3) 石川県の都市の位置関係 (方位)	65.5%

▼：住宅用火災警報器の役割について、複数の資料を関連付けて考察したことを、適切に表現すること〔4(3)〕

設問4(3)の正答率は33.4%と低く、不十分である。誤答には、「被害面積がせまい」など、どちらか一方の資料からの情報しか記述できていないものや、「音が火災を防ぐ」など、警報音を聞いた人が「通報」して火事の被害を防いでいることを適切に表現できていないものが見られた。その要因としては、読み取った複数の情報が何を表すのか、実際の生活場面を想起して具体的にイメージできていないために、情報の関連性に気付かず相互を結び付けて捉えることができていないことや、表現するために必要な資料の表題や項目にある言葉を的確に取り出すことができていないことなどが考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(3) 住宅用火災警報器の役割	33.4%

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・既習の知識や生活経験を想起することのできる、児童の実態に即した資料等を用いた学習

▼：石川県の気候の特徴について、資料を基に考察したことを、適切に表現すること〔1(4)〕

設問1(4)の正答率は、A・Bどちらも低く、石川県の気候の特徴について資料を基に考察したことを適切に表現することに関しては、不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率	
1	(4) A	石川県の気候（季節風）	36.1%
	(4) B	石川県の気候（雪）	17.0%

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・自分が立てた予想の根拠となる情報を、資料から適切に読み取る学習
- ・多面的・多角的に捉えさせるために、理由などを問い返したり、キーワードで整理したりする学習

【産業と国土（74.2%）】

○：地図帳を用いて、世界の主な大陸や海洋の位置、及び日本の国土や領域について必要な情報を読み取ること〔2(1)(2)〕

設問2(1)①②③は、地図帳を用いて、世界の主な大陸や海洋の位置、及び日本の国土や領域について読み取る問題である。正答率はほぼ80%を超えており、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	正答率	
2	(1)①	世界の中の日本の位置 （ユーラシア大陸）	89.8%
	(1)②	世界の中の日本の位置（経度）	80.0%
	(1)③	日本の領域（沖ノ鳥島）	76.8%
	(2)	日本の東端の島の検索（南鳥島）	91.4%

また、設問2(2)は、地図帳のさくいんを使って情報を検索する問題である。正答率は90%を超えており、良好である。

▼：資料から読み取った情報を基に考察したことを、適切に表現すること〔2(3)、6(3)〕

設問2(3)は、一年中あたたかい気候を利用して小ぎくを出荷する沖縄の農家の工夫を考察し表現する問題である。26年度の改善事例からの出題であったが、正答率は44.0%と低く、不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率	
2	(3)	日本の気候と産業 （沖縄県の産業）	44.0%
6	(3)	情報の有効な活用 （情報を発信するときの留意点）	59.6%

設問6(3)は、インターネットを利用していない年代を読み取り、多くの人に呼びかけを行う工夫について考察し表現する問題である。正答率は59.6%であり、不十分である。誤答は、「気持ちが伝わるから」など、資料からは読み取ることができないことを記述したのも見られた。

両設問に共通して見られる課題は、資料から読み取った情報を適切に使用し考察することができなかつたり、複数の情報を関連付けられなかつたりすることである。

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・資料から取り出した複数の情報を比較し、事実に基づいて共通点や相違点を見付ける学習
- ・話し合い活動等で、情報や意見について整理し、複数の情報の関連性に着目する学習
- ・考察したことを、資料で使われている言葉を用いて文章で表現させ、それを適切に校正する学習

**指導改善のポイント**

□資料から読み取った情報と既習の知識との関連付けに留意しながら、それを多面的・多角的に考察する力を育成すること（→事例1）

□資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察したことを、根拠を示しながら適切に表現する力を育成すること（→事例2）

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

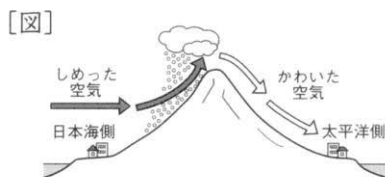
ア 事例 1

資料から読み取った情報と既習の知識との関連付けに留意しながら、それを多面的・多角的に考察する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
1(4)	地域学習	石川県の気候の特徴について、資料を基に考察したことを、適切に表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・観察・資料活用 of 技能

(4) 次に、太郎さんは石川県(日本海側)の冬の気候の持ちょうを、右の図をもとにカードにまとめました。A、Bにあてはまる言葉を□に書きましょう。



石川県の気候について

○冬の気候の持ちょう

- ・ □ A □ がしめった空気を運び、そのため □ B □ ので、夏に比べて冬の降水量が多い。

正答例		誤答例			
A	・ 季節風 ・ 冬の季節風 ・ 北西の季節風	A	・ 日本海(側)	・ 日本海側からの風, 雨, 雪 ・ 乾いた風, 空気, 雲	
B	・ 雪(雨)が多くふる	B	・ 雨がふる	・ 雨雲ができる ・ 降水量が多い ・ 乾いた空気が太平洋側に行く	
正答率(準正答率)		誤答率	無解答率		
A	36.1% (0.0%)	A	58.0%	A	5.9%
B	17.0% (0.4%)	B	73.2%	B	9.8%

② 指導改善に向けて

誤答としては、Aの設問については、図中に示されている「日本海(側)」をそのまま抜き出しているものが多かった。図を見て、既習の「季節風」を想起できておらず、定着していないことが考えられる。Bの設問では、石川県の気候の特徴である夏に比べて冬に雪や雨が「多い」ということまでは言及できていなかった。これらは、石川県の冬の気候について、資料の図から読み取った情報と既習の知識とを結び付け適切に表現する活動が不足していることが要因であると思われる。

以上のことから、日頃の学習において、課題に対する個人の予想を必ず立てさせ、既習の知識や経験を想起しながら、自分が立てた予想の根拠となる情報を資料から読み取っていく活動を継続して行っていく必要がある。また、理由や根拠などについて問い返しの発問をしたり、キーワードを基に整理させたりすることで多面的・多角的な視点で捉えさせることが必要である。さらに、まとめやふり返りで改めて文章として表現させたり、関連教材で取り上げ説明させたりするなど、基礎的な知識として確実に定着させるための工夫が大切である。

③ 改善事例 第3学年「はたらく人とわたしたちの暮らし」

1 指導の狙い

見学の計画を立てる活動を通し、資料から読み取った情報を既習の知識や経験と関連付け、それを多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現できるようにする。

2 具体例

【課題】〈スーパーマーケットでは、お客さんに来てもらうためにどんな工夫をしているのかな?〉

(1) スーパーマーケットの店内の様子の絵や写真を見ながら、既習の知識や経験と結び付けて、どんな工夫をしているのかを予想し、話し合う。

**ポイント1**：課題について予想を立て、その際に既習の知識や経験を想起させる。

家の人が、いつも行くスーパーマーケットは、たくさんの種類の品物がそろっているって言っていたよ。

店の中では・・・

※教科書等に掲載されている店内の様子を表した絵や写真

たくさんの種類の品物があるけど、きれいにならんでいるよ。

よく見ると、つうろの上に看板があるぞ。

どうして看板があるのかな?

服の色が違うのはどうしてだろう?

気づいたことを一言で表してみよう。

あなスーパーマーケットによく行くのかな?

あのスーパーマーケットには、ぼくの好きな物が売っているよ。

広い駐車場があると、どうしてお客さんがたくさん来るのかな?

はたらいっている人の服の色がちがっているぞ。

店の外では・・・

- ・広い駐車場
- ・ゆう先駐車場
- ・リサイクルコーナー
- ・広告、ちらし

**活動の留意点**: 意見を板書(カード等で貼付)し、問い返しの発問によって根拠や理由を明確にしなが、キーワードを考える。

(2) 予想をまとめ、見学の見通しを持つ。

**ポイント2**：多面的・多角的に捉えるために、キーワードを基にカテゴリーごとに分類する。

予想した工夫を、グループに分けて整理してみよう。

それぞれのグループには、どんな特長があるのかな?

<b>品物</b>	<b>買い物のしやすさ</b>	<b>はたらく人</b>	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・種類や数が多い (たな)</li> <li>・大きい冷ぞう庫 (新せん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看板 ・カート</li> <li>・広い駐車場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな仕事</li> <li>・服そうのちがい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル</li> <li>・広告 (安売り)</li> </ul>



スーパーマーケットの工夫がたくさん出てきたよ。4つのグループにわかれてくわしく調べていったらいいんじゃないかな。

**ポイント3**：話し合ったことを基に、キーワードを使って分かったことや考えたことを自分の言葉でまとめる。

【まとめ】 たくさんのお客さんに来てもらうために、「品物」「買い物のしやすさ」「はたらく人」などに工夫をしているようだ。



見学に行って、観察したりインタビューしたりして、工夫をくわしく調べたい。はたらく人がどんなことに気をつけているのかも知りたいな。



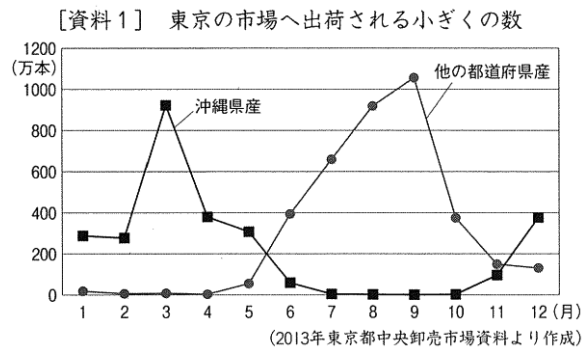
イ 事例2

資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察したことを、根拠を示しながら適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
2(3)	産業と国土	自然条件から見た特色ある地域の産業について、資料を基に考察したことを、適切に表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・観察・資料活用 of 技能

2(3) ゆいさんは、下線部⑥の沖縄県について調べ、沖縄県の小ぎく(きく)の生産量が全国第1位であることを知りました。そこで、沖縄県の小ぎくの出荷の工夫をノートにまとめました。資料1をもとに、あてはまる言葉を□□□□に書きましょう。



【ゆいさんのノート】

沖縄県は1年を通して、小ぎくが成長しやすいあたたかい気候であることがわかりました。その気候を利用して、

出荷しています。

正答例	誤答例	
他の都道府県があまり出荷していない 12月から5月(時期・冬)に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他府県との違いを示していない</li> <li>・3月に多く出荷している</li> <li>・小ぎくの咲く時期をずらして</li> </ul>	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
44.0%(6.8%)	48.4%	7.5%

② 指導改善に向けて

誤答の多くは、「他府県との違いを示していない」ものや「3月に多く出荷している」と答えているものであった。これは、2つのグラフから読み取れる情報を関連付けて解答しているのではなく、沖縄県産のグラフから読み取れる事象のみを表現しているものである。

指導に当たっては、複数の情報を関連付けながら考察を進めることと、読み取ったことや考えたことを適切に表現することが求められる。日頃の学習活動においては、学習問題に対して自分の予想を持つ活動を設定し、見通しを持たせることや、複数の情報を関連付けて考察したことを、自分の言葉で説明したり、話し合い活動を通して深めたりする場を設定することが大切である。また、その際には発問や問い返しを工夫し、適切に表現できるような指導を行うことが必要である。

### ③ 改善事例 第5学年「米づくりのさかんな地域」

#### 1 指導の狙い

庄内平野が米づくりに適している理由について、複数の情報を関連付けて考えたことを、根拠を示しながら適切に表現できるようにする。

#### 2 具体例

(1) 資料から、庄内平野の米の生産について問題意識を持つ。

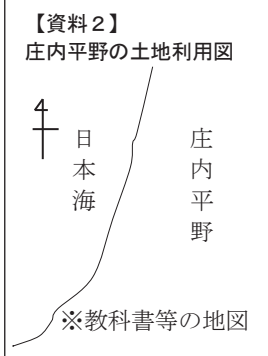
- ・日本全体に比べると、庄内平野は耕地に占める水田の割合が高いね。
- ・庄内平野は米づくりがさかんなんだ。



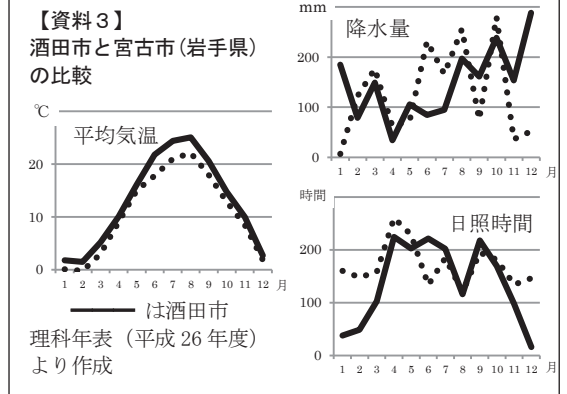
庄内平野が米づくりに適している理由は何だろう。

【課題】 <どうして庄内平野は米づくりに適しているのかな？>

(2) 資料から読み取れることを話し合う。



- ・東側の山々からいくつもの川が庄内平野に流れています。
- ・冬は北西から、夏は南東からの季節風が庄内平野にふきます。
- ・酒田市は宮古市に比べ、冬の降水量が多いです。
- ・平均気温も宮古市より高いです。
- ・春から夏にかけて宮古市より日照時間が長くなっています。



ポイント1：資料を丁寧に読み取り、予想を立てて話し合う中で、解決への見通しを持つ。

(3) 課題に対する予想を話し合う。

川が上流からたくさんの土を運んできて広い平野になったのかな。



冬の季節風によって山に降ったたくさんの雪がとけて、いくつもの川に流れ込んでいるのかな。

夏のあたたかい季節風や、長い日照時間によって、気温が高くなっているのかな。

同じ東北地方でも気候がずいぶん違うのは、季節風のためなのかな。

ポイント2：話し合い活動を通して情報や意見を整理し、複数の情報の関連性に気付かせる。

(4) 話し合ったことを基に、本時の課題についてまとめる。

山や川、広い平野などの「地形」に恵まれているから、米づくりに適しているのかな。

季節風による降水量や気温、日照時間などの「気候」に恵まれているのも、米づくりに適している理由なのかな。

庄内平野の人々にとって、季節風はどのような存在なのかな？

季節風は、冬には土の中の悪い菌を弱らせ、夏にはぬれた稲の葉を乾かし病気を防ぐはたらきもしています。

米づくりには欠かせない大切な存在だと思います。  
おいしい米をつくるための大切な自然のパートナーだと思います。

ポイント3：発問の工夫や新たな情報提示により、必要な用語を用いて自分の言葉で表現できるようにする。

【まとめ】庄内平野が米づくりに適しているのは、山や川、広い平野といった地形や、季節風がもたらす気候に恵まれているからです。人びとは、自然を生きながら米づくりを行っています。

庄内平野の人びとは、どのように米づくりを行っているのだろうか？調べてみよう。





中学校 第3学年  
「社会」「英語」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

27年度の平均正答率は59.4%で、26年度に比べ0.5ポイント上がっている。基礎・基本となる世界の地域構成について理解することについては、26年度に引き続き、概ね良好であった。しかし、世界的視野から日本の地域的特色を大観することや、複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現することについては、依然として課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野 (61.9%)】

○：世界の地理的事象について理解すること [1(1)(2)]

設問1(1)(2)は、世界の地形を問う問題で、(1)Bは26年度の同問題の正答率を10.3ポイント上回っており、概ね良好である。

今後も、世界の諸地域に関する地理的認識を深めるため、目的に応じて地図帳や地球儀・白地図を活用する学習を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1) A 三大洋 (太平洋)	93.9%
	(1) B 六大陸 (南アメリカ大陸)	89.1%
	(2) 南アメリカの地形 (アマゾン川)	71.2%

▽：日本の産業の特色を、複数の資料と既習の知識を基に判断すること [4(5)]

設問4(5)は、中部地方各県の産業の特色を、資料から読み取った複数の情報と既習の知識を基に判断し結論を導き出す問題である。①は読み取る過程について、②は結論を答える問題であるが、正答率はどちらも70%を下回り、十分とはいえない。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(5)① 日本の産業の特色 (長野県の産業)	66.5%
	(5)② 日本の産業の特色 (中部地方の産業)	68.2%

指導に当たっては、次の点に留意することが大切である。

- 資料の表題や最大値、最小値等に注目させ、グラフや表などの資料から必要な情報を読み取らせる指導を丁寧に行うこと (H26「分析・考察」事例1 参照)
- 本時の学習に必要な既習事項を、板書で明確に示す等の配慮を加えること

▼：世界と比べた日本の地域的特色について、資料を基に理解すること [4(1)(2)(3)(4)]

設問4(1)(3)(4)の正答率は、それぞれ40.3%、45.5%、56.1%と不十分である。(1)は26年度の類似問題の正答率39.7%とほぼ変わっていない。世界的視野から日本の地形や特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、日本の自然環境に関する特色を大観させることに課題があると考えられることから、指導に当たっては、次のような学習を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(1) 日本周辺の海流 (日本海流)	40.3%
	(2) 日本の地域区分 (東北地方)	91.3%
	(3) 日本の地形の特色 (フォッサマグナ)	45.5%
	(4) 日本の気候の特色 (雨温図)	56.1%

- 日本近海に大陸棚が広がっていることと、寒暖の海流が出合うことで世界的な漁場となっていることや、フォッサマグナを境に東日本と西日本で山脈の方向が違っていることなどの日本の地理的特徴について、地図帳や白地図を活用し、確実に捉えさせること
- 各気候区分の雨温図を比較して読み取ったそれぞれの特徴を、地形と気候・海流・季節風等と関連付けて説明させること

## 【歴史的分野 (57.1%)】

◇：歴史的事象の目的について、資料から読み取ること [2(6), 3(5)①]

設問2(6)は、文献資料と系図を基に摂関政治の特色を記述する問題であり、25年度の類似問題と比べて正答率は上昇し、基準に達している。また、設問3(5)①は、刀狩令の文献資料を読み、その目的を記述する問題であり、こちらも基準に達している。

設問番号	問題の内容	正答率
2 (6)	貴族の政治の特色 (摂関政治)	70.5%
3 (5)①	豊臣秀吉の統一事業 (刀狩令の目的)	78.2%

▼：時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色を捉えること [2(5), 5(4)]

設問2(5)の正答率は44.7%、設問5(4)は25.7%であり、不十分である。設問2(5)は、その時代の文化の特色を問う問題であり、26年度の類似問題と同様に、文化の特色を捉えることには依然として課題が見られる。また、設問5(4)は、日清戦争と日露戦争の間に起こった出来事を年代の古いものから順に並べる問題であり、基礎・基本となる歴史的事象が何かを判断し、歴史の流れを捉えることは不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
2 (5)	文化の特色 (天平文化)	44.7%
5 (4)	時代の流れ (日清・日露戦争間)	25.7%

指導に当たっては、単元のまとめの時間に、次のような学習を充実させることが大切である。

- ・その時代の特色を、具体的な歴史的事象を示しながら自分の言葉で説明させること
- ・その時代の特色を前の時代と比べて考察し、その時代がどのような時代だったのかを説明させること

▼：複数の資料を基に考察したことを、適切に説明すること [3(5)②, 5(5)]

設問3(5)②、設問5(5)の正答率は、それぞれ27.4%、41.9%であり、不十分である。

設問3(5)②では、[みさきさんのノート]に既にある「下剋上をさせない」や、1つの資料のみから読み取った「反乱を起こさせない」などの誤答が見られた。また、設問5(5)では、2つの資料を比較していない「この条約は、不平等だった」や、資料から読み取れる具体的な内容に触れていない「ロシアが損をしているから」「国民にとっていいことがなかった」などの誤答が見られた。これらのことから、歴史的事象に関する複数の資料を読み取り、それらの目的や背景、与えた影響を考察し、説明することに課題があると思われる。したがって、指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	正答率
3 (5)②	豊臣秀吉の統一事業 (豊臣秀吉の政策)	27.4%
5 (5)	日清・日露戦争後の世論形成 (下関条約とポーツマス条約)	41.9%

- ・文献資料の学習では、情報を読み取る段階と、それを基に解釈する段階に分けて学習するようにすること
- ・資料から読み取った複数の情報を比較したり、関連付けたりして考察させ、その歴史的事象の背景や影響などを説明させること
- ・資料から読み取った情報や解釈を全体で共有する場面を設定して、課題に対する考えを記述させること

## 指導改善のポイント

□世界と比べた日本の地域的特色を、様々な面から大観する力を育成すること (→事例1)

□複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現する力を育成すること (→事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。


(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1  
世界と比べた日本の地域的特色を、様々な面から大観する力を育成すること


① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
4 (1)(2)(3)(4)	地理的分野	世界と比べた日本の地域的特色を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象への関心・意欲・態度</li> <li>社会的な思考・判断・表現</li> <li>資料活用 of 技能</li> <li>社会的事象についての知識・理解</li> </ul>

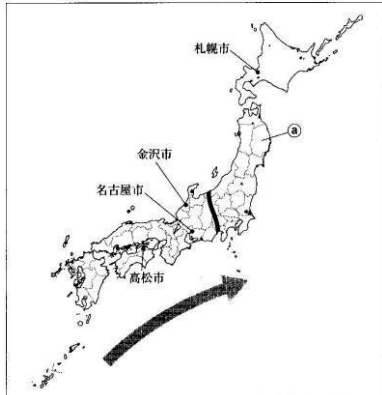
4

(1) 地図1のは日本周辺の海流を示している。この海流の名前を、次のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。  
ア 千島海流 イ リマン海流 ウ 日本海流 エ 対馬海流

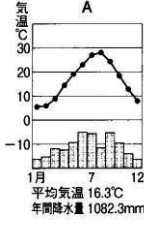
(2) 日本を7地方に区分したとき、地図1の①の県は、何地方にあたるか、書きなさい。

(3) 地図1ので示した線を西端として、日本列島の地形を東西に分けている地帯を何というか、書きなさい。

(4) 下のA～Dの気温と降水量を表したグラフは、地図1の札幌市、金沢市、名古屋市、高松市のいずれかのものである。グラフと都市名の正しい組み合わせを下のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。  
ア A 名古屋市 B 高松市 C 金沢市 D 札幌市  
イ A 名古屋市 B 高松市 C 札幌市 D 金沢市  
ウ A 高松市 B 名古屋市 C 金沢市 D 札幌市  
エ A 高松市 B 名古屋市 C 札幌市 D 金沢市

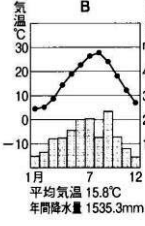


気温℃



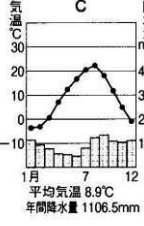
平均気温 16.3℃  
年間降水量 1082.3mm

気温℃



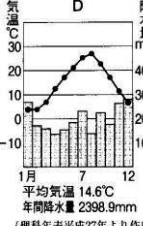
平均気温 15.8℃  
年間降水量 1535.3mm

気温℃



平均気温 8.9℃  
年間降水量 1106.5mm

気温℃



平均気温 14.6℃  
年間降水量 2398.9mm

(理科年表平成27年より作成)

正答例	誤答例	
(1) ウ (2) 東北(地方) (3) フォッサマグナ (4) エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ, ア</li> <li>・イ, ア</li> </ul>	
正答率	誤答率	無解答率
(1) 40.3% (2) 91.3% (3) 45.5% (4) 56.1%	(1) 59.1% (2) 6.4% (3) 31.9% (4) 42.4%	(1) 0.7% (2) 2.3% (3) 22.6% (4) 1.5%

② 指導改善に向けて

この設問は、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、自然環境の面から見た我が国の国土の特色を大観する力を問う問題である。(2)を除き、正答率は不十分である。また、(3)の無解答率は22.6%と極めて高い。

指導に当たっては、我が国の国土の特色を大観させるため、次のような段階的指導が必要である。

- それぞれの資料から必要な情報を読み取らせる。
- 読み取った情報を、既習の知識と結び付けたり地図帳を十分に活用したりしながら、日本を一つの地域として取り扱うことを工夫し、世界的視野から日本の地域的特色を考察させる。
- 考察したことを自分の言葉で表現させたり、白地図にまとめさせたりする。

③ 改善事例 第2学年「日本のすがた」

1 指導の狙い

世界と比べた日本の地域的特色について、資料を基に理解する力を育成する。

2 具体例

課題 〈日本の経済水域は、世界と比べてどのような特徴があるのだろうか？〉

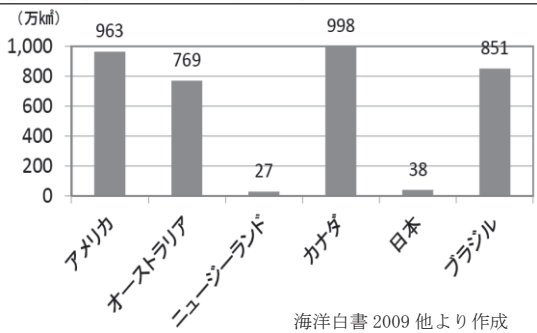


① 一つ一つの資料から、日本の地域的特色について読み取る学習  
(最大値, 最小値, 同じくらいの値のものに注目させる。)

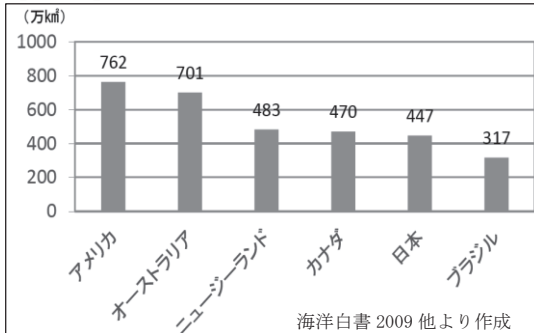


それぞれのグラフから、世界各国と比べた日本の特色について気が付くことはどのようなことですか？

【資料1】 世界各国の領土面積



【資料2】 世界各国の経済水域



日本の領土面積は、とても狭く、ニュージーランドはもっと狭くなっています。日本の経済水域は、ニュージーランドやカナダとほぼ同じ広さになっています。

でも、カナダの領土面積は、日本よりずっと広い(約26倍)と思います。



② 複数の資料から読み取った情報を関連させ、世界の国々と比較した日本の地域的特色について考察する学習



2つのグラフの情報を関連させて考えると、どのようなことがわかりますか。

日本はカナダより領土面積はかなり狭いのに、経済水域は同じくらいの広さです。

なるほど。では2つのグラフから、それぞれの国の経済水域は領土面積の何倍の広さになっているか計算してみましょう。

カナダは約0.5倍の広さしかないのに、日本は約12倍の広さがあります。

つまり、世界の国々に比べ、日本は領土面積のわりに経済水域が広いと言えます。



③ 地域的特色が見られる理由を、既習の知識と結び付けたり、地図帳を活用したりしながら考察する学習

なぜ、このような特徴が見られるのでしょうか。地図帳を見て考えましょう。



日本は周りを海に囲まれた島国だからだと思います。

地図で確認すると、ニュージーランドも日本と同じような島国となっています。



日本の東西南北端の島を地図帳で確認し、白地図に書き入れましょう。



島国であるだけではなく、離島が多いことも関係しているのではないかと思います。

この離れたところにある経済水域は南鳥島から200海里の範囲ですね。東西南北端の島などの離島があるおかげで、日本の経済水域は領土面積のわりに広いのですね。



【まとめ】

日本は他国と比較すると領土面積のわりに経済水域が広い。周りを海で囲まれた島国であり、離島が多いからである。



イ 事例 2

複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
3 (5)②	歴史的分野	豊臣秀吉の政治について、複数の資料を基に考察したことを、説明することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・資料活用の技能

(5) 資料1と資料2は、豊臣秀吉が天下統一に向けて大名に出した法令である。この2つの資料をもとに、みさきさんは、豊臣秀吉がどのような国づくりをめざしたのかを下のようにノートにまとめました。①と②にあてはまる言葉を書きなさい。

[資料1]

諸国の百姓が刀・脇差・弓・槍・鉄砲その他、武器を持つことをかたく禁止する。武器を持っていると…、一揆をおこしたり、領主に反抗したりしがちであるからだ。だから領主や代官は百姓の持っている武器をすべて取り上げなさい。  
「小早川家文書より」

[資料2]

なぜ検地をするのか、農村の土豪や百姓たちが納得いくように十分に言ってきたかせなさい。もしも命令に従わない者がいる場合、…一人残らず切りすててしまえ。…日本全国に厳重に命令したことなので、出羽・奥州の辺境の地でも手を抜いてはいけない。  
「浅野家文書より」

[みさきさんのノート]

資料1は、① ことを防ぐために、百姓が武器を持つことを禁止した法令である。

資料2は、全国の農村の土豪や百姓に対して強制的に検地を行うために出された法令である。

資料1と資料2から、百姓を農業に専念させて、百姓に② ことをねらいとしたと考えられる。このように秀吉は、武士と百姓の身分の区別をはっきりさせる兵農分離を進めるとともに、下剋上を防いで、争いのない豊かな国づくりをめざしたのである。

正答例	誤答例	
年貢を確実に納めさせる (ことをねらいとした)	・反乱を起こさせない。 ・下剋上をさせない。	・身分の違いを分からせる。 ・農業に集中させる。
正答率 (準正答率) 27.4% (1.8%)	誤答率 55.9%	無解答率 16.7%

② 指導改善に向けて

誤答では、資料1から読み取った刀狩の目的にしか触れていないものや、資料1と資料2から読み取ったことを基にして、刀狩と検地の目的が、百姓を農業に専念させて年貢を確実に納めさせることであるところを踏まえていないものが見られた。

これは、歴史的事象に関する文献資料を正確に読み取ることや、文献資料から読み取ったことを基にして考察し、自分の解釈を加えて説明すること等に対する指導が不十分であることが原因と考えられる。

指導に当たっては、焦点化して取り上げた文献資料を正しく読み取る学習を位置付けて、資料を基に学習する場面を増やしたり、情報を読み取る段階とそれを基に解釈する段階に分けて学習することが必要である。また、文献資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりして考察する場面を設定して課題に対する考えを記述させ、それをペアや全体で表現する場を設定し、自分の考えをより正しいものへと磨いていくことが大切である。

③ 改善事例 第2学年「明治維新」

1 指導の狙い

複数の資料から読み取った情報を関連付けて、課題に対して適切な表現ができるようにする。

2 具体例 **課題** <明治政府は、反対や不満の声があったのに、なぜ改革を進めていったのだろうか？>



政府が出した法令にはどんなことが書いてあったのだろう。



① 資料の内容を丁寧に読み取ったり、比較したりする学習

【資料1】学制序文

このたび、文部省で学制を定め、今後は、身分を問わず、家に不学の人がいないことを目標とする。

人の父兄である者は、この意味をよく理解して、自分の子弟を必ず学校に通わせなければならない。

「太政官布告」より作成

【資料2】徴兵告諭

およそ天地の間にあるもので税のかからないものはない。その税を国の費用にあてる。だから人は心と力を尽くして国に報いなければならない。西洋人は、これを血税という。自らの血をもって国に報いるという意味である。

海陸二軍を備えて、全国の男子で20歳になった者はすべて兵籍に入れ、緊急時に備える。

「太政官布告」より作成

【資料3】地租改正～江戸時代との比較～

江戸時代		地租改正後	
耕作者(本百姓)	納税者	土地所有者	
収穫高	課税基準	地価	
四公六民(幕府の領地)	税率	地価の3%(1877年から2.5%)	
物納(米)村単位	納税方法	金納(現金)個人	



子どもは必ず学校に行くように言っているよ。

20歳になった男子は、兵役の義務を負ったのね。



地価を基準に、地租を現金で納めるようになったのね。



3つの法令を、それぞれ江戸時代のときと比べてみよう。



義務教育によって、国民全員が学ぶようになったんだ。

国民による西洋式の軍隊になったのね。



現金で納めることで、政府の収入が安定したのね。



この当時、日本と欧米列強の国とは、どんな関係だったのかを思い出してみよう。



欧米の5か国とは、領事裁判権を認め、関税自主権がない不平等な条約を結んでいたよ。

アヘン戦争でイギリスに敗れた清も不平等条約を結んでいたわ。



② 資料から読み取った複数の情報を関連付けて、政府が法令を出した目的を話し合う学習



政府が法令を出した目的をワークシートに書いて、グループで話し合ってみよう。

【資料1】・【資料2】からの考察

政府が、近代国家を目指すためには、教育を普及させて、全国統一の軍隊をつくるのが大事だと考えたのだと思います。

【資料1】・【資料2】・【資料3】からの考察

政府は、日本が欧米列強に追いつくには、全国を直接治める制度が必要だと考え、そのため、様々な法令を出して、近代的な中央集権の国家を目指したのだと思います。

③ 課題に対して話し合ったことを、キーワードを基に適切な文章にまとめる学習



明治政府は、どのような国を目指して、これらの改革を進めていったのだろうか？

明治政府は、欧米列強に対抗できる国にするため、「富国強兵」のスローガンのもとに経済を発展させて国力を付け、軍隊を強くしたかったのだと思います。



明治政府は、欧米に比べると日本が遅れていることを自覚していたから、反対の声があったけれど、近代化を進めるための改革を行い、国力の充実を図ったのだと思います。



政府は、「富国強兵」の政策を行い、欧米に対抗できる中央集権国家を目指したのですね。

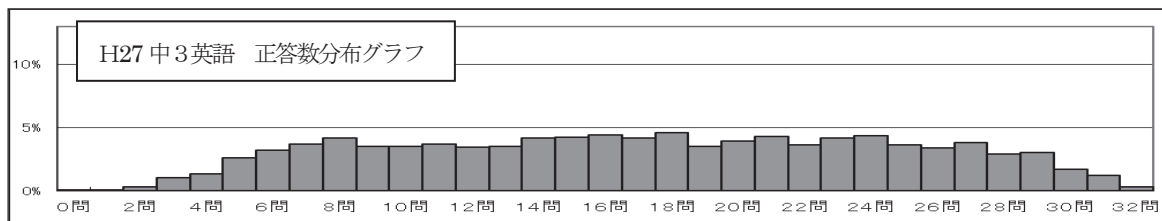


【まとめ】 明治政府は、欧米列強に対抗する国力をつけるために、「富国強兵」の政策のもと、近代国家の基礎を整えるための改革を進める必要があったから。

(1) 全体的な傾向の分析・考察

27年度の平均正答率は53.5%で、26年度より9.1ポイント下回った。語彙や文法などの知識を活用しながら、まとまった量の英文を適切に読む力やまとまりのある内容の英文を適切に書く力、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞く力に課題が見られる。

また、ここ数年の正答数分布グラフからは、下位層の生徒の学力を引き上げること、中間層・上位層の生徒の学力を伸ばすことができていないという現状がわかる。このことから、基礎・基本の定着を図るとともに、習得したことを実際の場面において活用できる力を付けるための授業の工夫・改善が必要である。



(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと (57.2%)】

▼：まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら内容の要点を適切に聞き取ること〔3〕

設問3は、ある程度まとまった量の英文を聞き、情報を整理しながら要点を聞き取る問題に変更したことで、全体の正答率は27.6%と、26年度を大きく下回った。全体として話されている内容や必要な情報を、整理し切れなかったことが要因であると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
3	No. 1 内容の要点 (何についての話か) の聞き取り	24.8%
	No. 2 内容の要点 (生徒が話すこと) の聞き取り	43.8%
	No. 3 内容の要点 (パーティーの開始時刻) の聞き取り	14.2%

指導に当たっては、強勢や区切り、語と語の連結による音変化への指導や、意味のまとまりを意識しながら英語の語順に沿って理解する指導を継続して行う必要がある。また、キーワードでのメモや図式化などによる情報の整理の仕方を学ばせるとともに、メモを基に聞き取った要点を口頭で説明したり、自分の言葉でまとめたりするなど、他の技能と関連付けた指導を一層工夫することが大切である。

【読むこと (54.1%)】

▽：言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら、短い英文を正しく理解すること〔4〕

設問4(3)は、26年度とほぼ同問であったが、正答率は26年度同様30%台である。be動詞を選択した誤答が多く、言語の使用場面や働き、語句の役割に留意しながら英文を正しく読み取ることが十分とは言えない。

設問番号	問題の内容	正答率
4 (3)	一般動詞を用いた文の内容に対する応答	35.5%

指導に当たっては、言語の使用場面や働きを意識した導入や練習を行い、形・意味・用法を合わせて理解させることが大切である。

▼：情報を整理しながら全体の概要や大切な部分、書き手の意向などを適切に読み取ること〔7, 8〕

設問7では、週末の3日間の天気の様子について、比較表現を用いた情報を時系列に沿って整理しながら正確に読み進めることができておらず、全体の概要を適切に読み取ることが不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
7	全体の概要の読み取り	49.0%
8	(1) 書き手 (話し手) の意向の読み取り	41.9%
	(2) 大切な部分 (具体的な内容) の読み取り	42.8%
	(3) 話の詳細な情報の読み取り	14.8%



設問8は、全ての設問において正答率が50%を下回った。特に(3)では、要点となる“I can enjoy many different experiences …”の内容を捉えることができていない誤答が多いことから、情報を整理しながら書き手(話し手)の意向や大切な部分を適切に読み取ることは不十分である。

指導に当たっては、概要や要点の読み取りの方法を繰り返し指導して身に付けさせるとともに、読み手として主体的に思考・判断しながら、自分の感想や考えを持つことができるよう、発問を工夫することにより生徒に本文を何度も読ませ、内容に深く関わらせることが大切である。

(H25「分析・考察」事例2 H26「分析・考察」事例1 参照)

### 【書くこと (49.9%)】

#### ▼：語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて正しく書くこと〔5, 9〕

設問5(3)(5)は、26年度30%台にとどまっていた正答率が40%を上回り、後置修飾の文構造の定着については徐々に改善が図られているものの、不十分である。

設問9は、24年度からの同形式の問題である。難易度が

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
5	(3) 前置詞句の後置修飾を用いた英文の語順	46.1%	2.2%
	(5) 不定詞の形容詞的用法を用いた英文の語順	42.2%	2.9%
9	(1) 状況に合う英文(主語+動詞)への書きかえ	54.1%	7.7%
	(2) 状況に合う英文(接続詞)への書きかえ	13.3%	20.1%
	(3) 状況に合う英文(動名詞)への書きかえ	31.4%	13.6%

やや上がったこともあるが、正答率は全体として25年度より約13ポイント下回り、不十分である。与えられた場面や状況の中で語彙や文法などの知識を正しく活用できていないため、(1)では26年度同様、動詞がない誤答、(2)では従属接続詞に着目できていない誤答、(3)では動名詞の語形変化の誤答が多く見られた。また、(2)(3)は無解答率も高く、場面や状況に応じて語順や語形に気を付けながら正しく書く力は、依然不十分である。

指導に当たっては、次のような工夫が必要である。

- ①会話の内容を客観的に書き換えたり、理解したことを自分の言葉でまとめたりするなど、他の技能と関連付けた指導の工夫を図る。(「学力向上プログラム」英語の指導法 参照)
- ②新出表現の導入の際に、既習と比較したり、必要に応じて日本語と英語を対比させ共通点や相違点に気付かせたりするなどの工夫により、英語特有の語順についての理解・定着を図る。

#### ▼：言語の使用場面や働きに応じて、適切に書くこと〔6〕

設問6(1)では、Is this my bag?, (2)では、Can you help me? など、場面と英文が結び付いていない誤答が見られた。また(3)では、Which bus I get on? など言葉の足りない英文も見られた。更に無解答率も高いことから、言語の使用場面や働きに応じて適切に書くことは不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
6	(1) 言語の使用場面・働き(相手の行動を促す)に応じた筆記	55.9%	12.2%
	(2) 言語の使用場面・働き(考えや意図を伝える)に応じた筆記	59.9%	15.7%
	(3) 言語の使用場面・働き(相手の行動を促す)に応じた筆記	33.0%	24.4%

指導に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ①具体的で分かりやすい場面や状況を設定し、それにふさわしい英文の形式を判断させながら、適切な表現を選択させたり自ら考えさせたりする機会を設定する。(H25「分析・考察」事例1 参照)
- ②既習表現を繰り返し活用させる場面を設定することで、確実な定着を図る。

### 指導改善のポイント

- まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら内容の要点や大切なポイントを聞き取る力を高めること (→ 事例1)
- 他の技能と関連付けた指導を工夫しながら、聞いたり読んだりして理解した内容を状況に応じて正しく表現する力を高めること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 2

ア 事例 1

まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら内容の要点や大切なポイントを聞き取る力を高めること。

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
3	聞くこと	まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・外国語理解の能力

3 《メモ》

7人の \_\_\_\_\_ No. 1 \_\_\_\_\_ ことについて

- ・ 来週の火曜日
- ・ パーティーで \_\_\_\_\_ No. 2 \_\_\_\_\_ について話す
- ・ 開始時刻は \_\_\_\_\_ No. 3 \_\_\_\_\_

(リスニング問題文)

英語クラブ担当のスミス先生が、英語クラブの広美さん達に説明しています。広美さんは内容を忘れないようにメモをとりながら聞いています。その内容について、問題用紙の《メモ》のNo. 1～No. 3にあてはまる日本語を、解答用紙に書きなさい。

Next Tuesday, 7 junior high school students from Canada will come to our school. In the morning, they will join science and music classes. After the classes, they will have lunch. In the afternoon, our school will have a party for them. At the party you will tell them about your school life in English. From today you need to practice for the party.

And I want to tell you one more thing. On that day, please come to this English room at one thirty. Let's practice here. You will have 30 minutes before the party starts. Are you OK?

正答例 (準正答例)		誤答例	
No. 1	カナダからの中学生が来校する	No. 1	留学生の / 生徒の / 中学生の
No. 2	(英語で) 学校生活	No. 2	英語 / 学校の英語
No. 3	(午後) 2時 / 2:00 / 14:00	No. 3	1:30 / 3時ごろ
正答率 (準正答率)		誤答率	無解答率
No. 1	24.8% ( 18.2% )	No. 1 54.3%	No. 1 20.9%
No. 2	43.8% ( 5.0% )	No. 2 40.7%	No. 2 15.5%
No. 3	14.2% ( 0.0% )	No. 3 71.6%	No. 3 14.2%

② 指導改善に向けて

設問3は、聞き取る英文が長くなったことから、話されている内容について必要な情報を整理し切れず正答率が下がったと考えられる。英語特有のリズムやイントネーション、語と語の連結による音変化の指導や、話されている内容についてメモを取りながら聞くことの指導が不足していることが懸念される。まとまりのある英文を聞いて内容を理解するためには、英語特有の音に慣れさせる練習を行うとともに、聞き取る際には「5W1H」を意識させながらキーワードをメモしたり、聞き取ったキーワードを図式化したり表にまとめたりするなど、情報を整理しながら概要をつかむ活動を繰り返し行うことが必要である。また、メモを基に聞き取った要点を口頭で説明したり、自分の言葉でまとめたりするなど、他の技能と関連付けた指導が大切である。

③ 改善事例 第2学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導の狙い

まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら内容の要点や大切なポイントを聞き取る力を高める。

◇ 聞き取った情報の要点を自分の言葉で相手に伝えることを通して聞く力を高める事例

2 具体例



指導のポイント

聞き方の指導の工夫

話題やテキストの形式に応じた視点に注目させる。

[例]

- ・繰り返し出てくる語句や強く読まれる語句などから話題を捉えさせる。
- ・「5W1H」に注目し、要点をつかませる。

情報整理の仕方の指導

- ・メモを取る
- ・図式化する
- ・表にまとめる
- ・マッピングする

(H23「分析・考察」改善事例2 参照)

リスニングの技能を高める指導の工夫

次のような指導を継続的に行うことで、英語の語順に沿って理解できるようにする。

[例]

- ・聞いた音声をすぐに音声化するシャドウイング
- ・意味のまとまり、音のつながりと変化、リズムやイントネーションなどを意識した音読練習

他の技能と関連付けた活動の設定の工夫

聞いた内容を友達に伝えるなど、他の技能と関連付けることで、聞く必然性のある活動を設定する。

(1) メモを取りながら英文を聞き、概要をつかむ。



Let's listen to news. What's the topic of the news?

Welcome to English news. Minami City starts a Japanese class for foreign people next April. Foreign people can take the class for free if they live in Minami City.

Minami City opens the class on every Friday at City Hall.

The class is from 6 to 8 in the evening.

If you are interested, please call 6398-1592.

What is this news about?



Minami City.  
Japanese class.

Minami City starts a Japanese class.

(2) 「5W1H」に注目して、もう一度英文を聞き、要点をつかむ。

メモの例

- ・南市
- ・日本語教室
- ・4月スタート
- ・外国人 無料
- ・金 6時～8時 市役所
- ・TEL 6398-1592

※左の例は、時系列でキーワードのみをメモしたもの。  
※メモは(1) (2) (3) で随時追加させる。

(3) 聞き取った情報を確認し、説明に必要な表現の口頭練習をする。

※説明に必要な表現は板書する。

When does the class start?  
Who can take the class?  
When of the week does  
Minami City open the class?  
など



It starts next April.  
Foreign people in  
Minami City can take it.  
Minami City opens it on  
Friday at City Hall.

(4) ニュースの英文の音読練習をする。

(5) 文字を見ないで英文を聞き、内容が理解できるかを確認する。

(6) メモを基に、ニュースの要点を伝えあう。



[例] Minami City starts a Japanese class next April. Foreign people in Minami City can take it. They don't need money. Minami City opens the class on Friday at City Hall. It starts at 6 in the evening. They can call 6398-1592 if they are interested.

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 1

イ 事例2

他の技能と関連付けた指導を工夫しながら、聞いたり読んだりして理解した内容を状況に応じて正しく表現する力を高めること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題の狙い	評価の観点
9	書くこと	状況に合う英文（主語＋動詞・接続詞・動名詞）に書き換えることができる。	・外国語表現の能力 ・言語や文化についての知識・理解

⑨ 拓也さん(Takuya)は、新聞部の記事を書くために、新しく外国から来たブラウン先生(Ms. Brown)にインタビューしました。【インタビュー】を参考にして、《拓也さんが書いた新聞記事》の(1)～(3)にあてはまる英語を1～2語で書きなさい。

【インタビュー】

Takuya : Hello, Ms. Brown. Where are you from?  
 Ms. Brown : I'm from America.  
 Takuya : What do you want to do in Japan?  
 Ms. Brown : I want to learn judo. I visited Japan last year. I wanted to learn judo, but I couldn't. So I want to practice it after school with you.  
 Takuya : Do you have any messages for the students?  
 Ms. Brown : I hope you can study English with me and enjoy it.  
 Takuya : Thank you very much, Ms. Brown.



《拓也さんが書いた新聞記事》

**Our New English Teacher**  
 This is Ms. Brown. (1) from America. She wanted to learn judo, but she couldn't learn it (2) she visited Japan last year. So she wants to practice it after school with us.  
 She hopes we can enjoy (3) with her.



正答例 (準正答例)	誤答例	
(1) She is / She comes (Ms. Brown is)	(1) She / I'm / He's	
(2) when / although	(2) because 他の接続詞 / to judo / was	
(3) studying English (studying / English)	(3) study / study English	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
(1) 54.1% ( 0.7% )	(1) 38.2%	(1) 7.7%
(2) 13.3% ( 0.1% )	(2) 66.6%	(2) 20.1%
(3) 31.4% ( 21.2% )	(3) 55.1%	(3) 13.6%

② 指導改善に向けて

設問9では、語順や語形、接続詞等の誤答をはじめ、無解答率も高く、与えられた場面や状況の中で知識を活用して正しく書く力は依然として課題である。授業においては、知識の習得に重点が置かれ、実際に学んだ知識を活用して表現させる言語活動が十分に行われていないことが懸念される。場面や状況に応じて正しく書く力を高めるためには、単元全体を通して計画的に指導することが必要である。その際、他の技能と関連付け、聞いたり読んだりして理解した内容を客観的に書き換えたり、自分の言葉でまとめたりする活動を通して既習の語彙や文法の知識を正しく活用できるように指導することが大切である。



③ 改善事例 第2学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導の狙い

他の技能と関連付けた指導を工夫しながら、理解した内容を状況に応じて正しく表現する力を高める。

◇場面や状況に応じて語彙や文法の知識を活用し、伝えたい情報を正しく書く力を高める事例

2 具体例 「ALTの紹介文を書く」活動の1時間の流れ

(1) ALTの簡単な自己紹介を聞く。 ※ALTの自己紹介は省略

(2) 聞き取った内容をペアで伝えあう。

指導のポイント



Ms. Millar is from Hawaii. She came to Japan last year.  
She likes to listen to music. She likes to travel, too.  
She wants to go to Okinawa this summer.



場面や状況に応じた内容、伝えたい情報を正しい語順や語法で書いたり話したりする練習や活動の工夫 ①

聞いたことを伝えあうなど、場面設定を工夫することで、she や likes 等を使う必然性のある練習や活動を行う。

(3) 新しい情報を得るためにALTに質問する。

Student: Can you speak Japanese?

ALT: Yes, I can speak Japanese a little.

Student: I like to listen to music, too. What kind of music do you like?

ALT: I like to listen to classical music. I also like to listen to Japanese pop music.

Student: Which place do you like the best and why?

ALT: I like Kumamoto the best. I saw the beautiful castle.

(4) 教師が(3)の内容を確認しながら、紹介文を書くために必要な表現の口頭練習をする。

JTE: What does she like to do?

Student: She like listen to classical music.

JTE: She like or she likes?

Student: She likes to listen to classical music.

JTE: She likes to listen to classical music and?

She likes to listen to classical music and Japanese pop music. (Repeat)

場面や状況に応じた内容、伝えたい情報を正しい語順や語法で書いたり話したりする練習や活動の工夫 ②

状況に応じた代名詞や接続詞等の用法や意味を理解させ、十分な口頭練習を行うことで、書くために必要な表現の定着を図る。

JTE: What is her favorite place and why?

Student: Kumamoto.

JTE: Yes, she likes Kumamoto the best. (Repeat)

She likes Kumamoto the best because?

Student: She saw the beautiful castle in Kumamoto.

JTE: She likes Kumamoto the best because she saw the beautiful castle there. (Repeat)

(5) 口頭練習した表現を使ってALTの紹介文を書く。

(6) 自己評価・相互評価し、リライトする。

Ms. Millar is our new English teacher. She is from Hawaii. She came to Japan last year, so she can speak Japanese a little.

She likes to listen to classical music and Japanese pop music. She also likes to travel. Her favorite place is Kumamoto because she saw the beautiful castle there. This summer she wants to go to Okinawa.



[定着の確認]

・教師が添削した紹介文を、再度書く。

自己評価、相互評価の工夫

書く活動で示した視点に沿って紹介文を評価、推敲させる。  
[例]・代名詞 ・接続詞

- ・動詞の語形変化や時制
- ・文と文のつながり

確実な定着の工夫

達成状況を再度点検することで確実な定着を図る。



## Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察





# 1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好きと答えた児童の割合について、多くの教科で昨年度を上回っている。特に社会、理科、体育の勉強が好きと答えた児童の割合は、調査開始以来最も高い。また、授業の内容がよく分かると答えた児童の割合についても、昨年同様に高いことから、全般的に小4児童の学習意欲は概ね良好である。

## 学びの指針 4・5

- 「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている」(85.0%)、「国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている」(80.3%)、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(93.7%) 児童の割合はいずれも高く、学力・学習を支える基盤については概ね良好である。

## 学びの指針 7・10

- 「テレビを2時間以上見ている」(47.5%) 児童の割合は年々減少しているが、「テレビゲームを2時間以上している」(24.1%) 児童の割合は増加しており、今後注意する必要がある。
- 「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」(73.0%) 児童の割合は、調査開始以来最も高く、実生活や社会の情報について関心の高まりが見られる。
- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(91.9%) 児童や「将来の夢や目標を持っている」(86.0%) 児童の割合は高く、小4児童の自己肯定感は昨年と同様に概ね良好である。

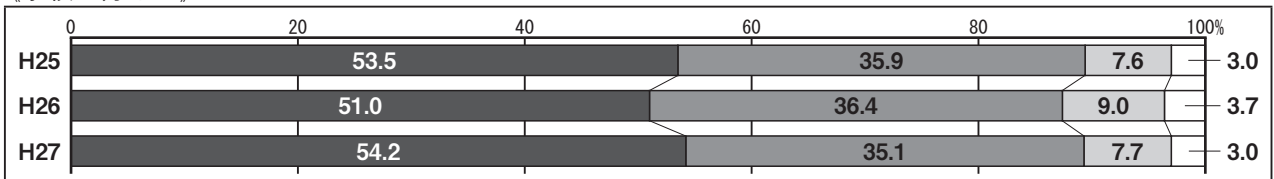
※無回答を除いた割合で示している。

# 1

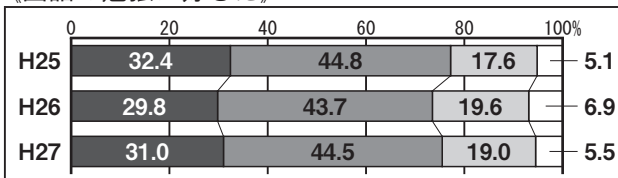
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

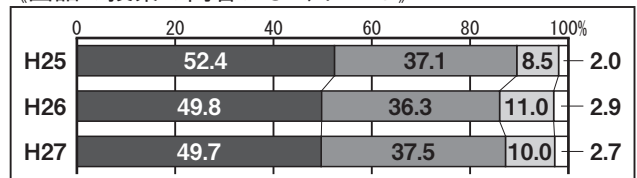
### 《学校は好きだ》



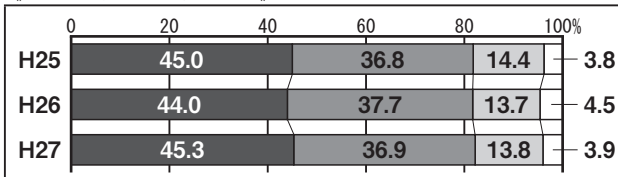
### 《国語の勉強は好きだ》



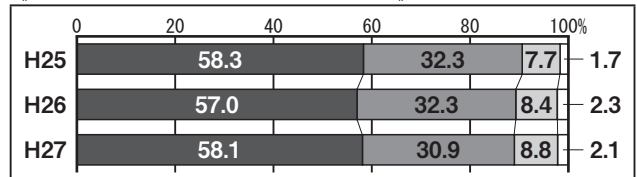
### 《国語の授業の内容はよくわかる》



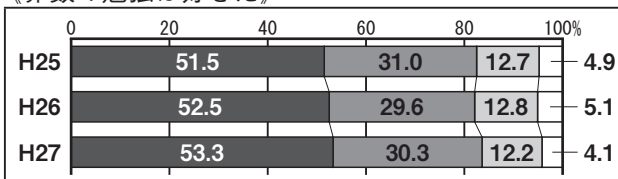
### 《社会の勉強は好きだ》



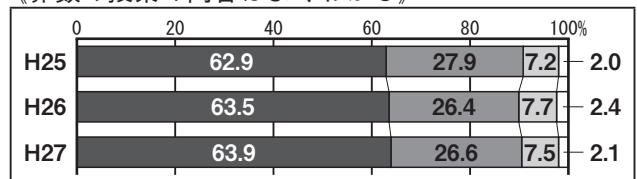
### 《社会の授業の内容はよくわかる》



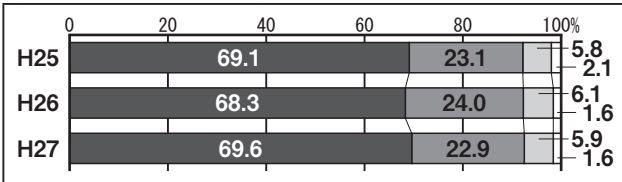
### 《算数の勉強は好きだ》



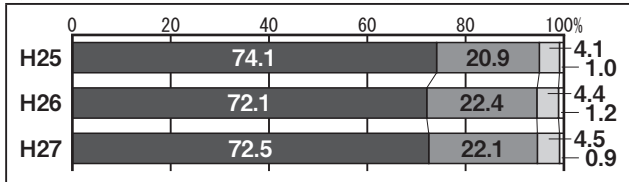
### 《算数の授業の内容はよくわかる》



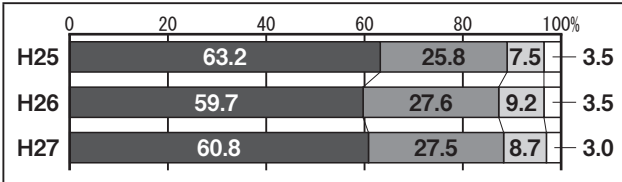
《理科の勉強は好きだ》



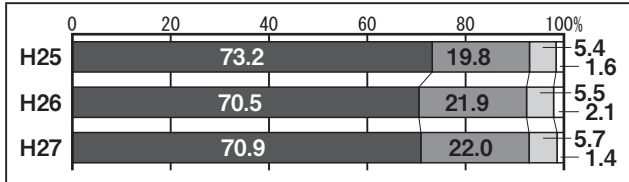
《理科の授業の内容はよくわかる》



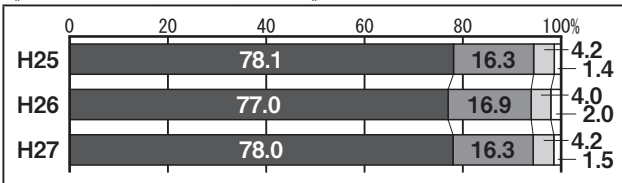
《音楽の勉強は好きだ》



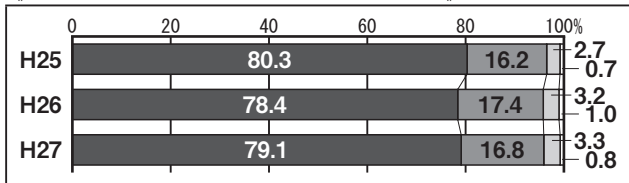
《音楽の授業の内容はよくわかる》



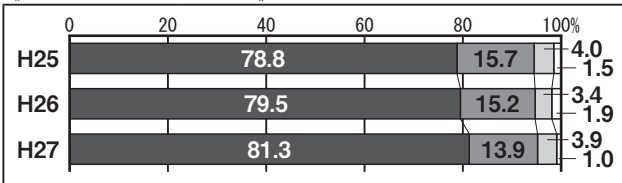
《図画工作の勉強は好きだ》



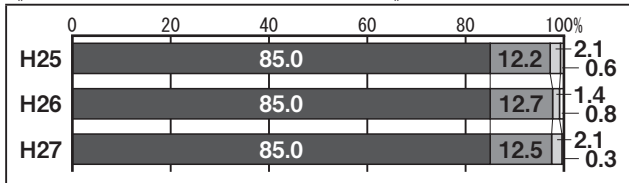
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



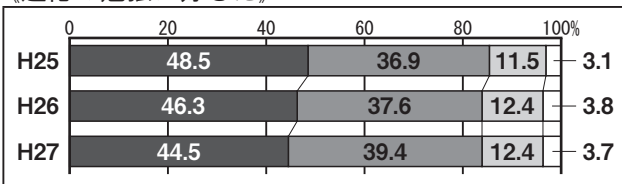
《体育の勉強は好きだ》



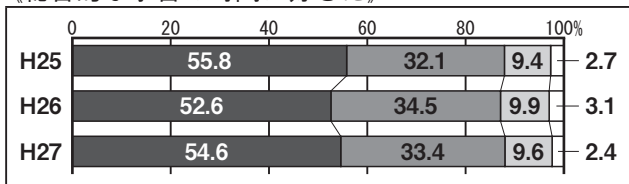
《体育の授業の内容はよくわかる》



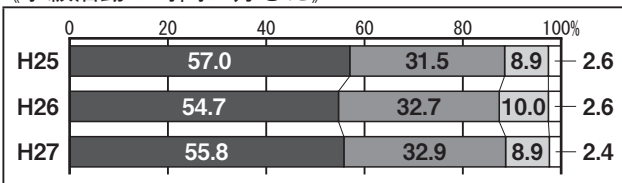
《道徳の勉強は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

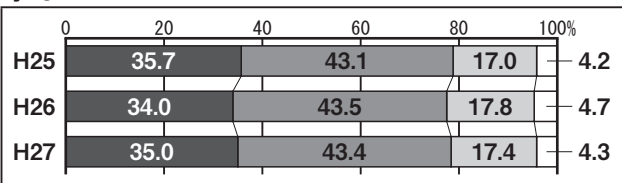


・社会、理科、体育の《勉強は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、それぞれ82.2%、92.5%、95.2%であり、調査開始以来最も高い。

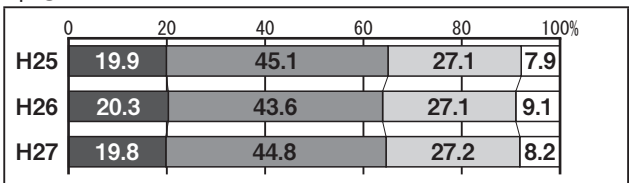
＜参考＞

《道徳の時間は好きだ》

小6



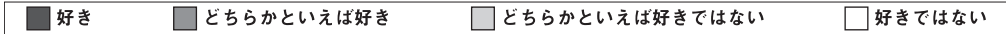
中3



・《道徳の時間は好きだ》について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小6で78.4%、中3で64.6%であり、調査開始以来最も高かった25年度と同程度である。

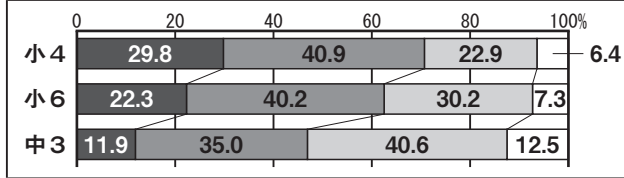
## 2

授業の中で次のようなことは好きですか。

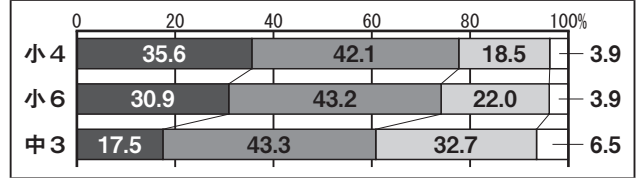


### <学年間比較>

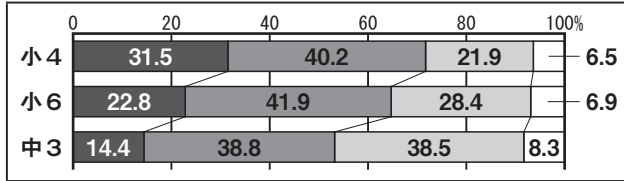
《自分の考えを發表したり、話し合ったりすること》



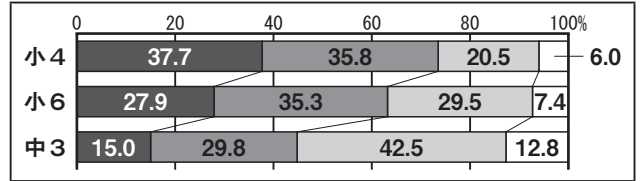
《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



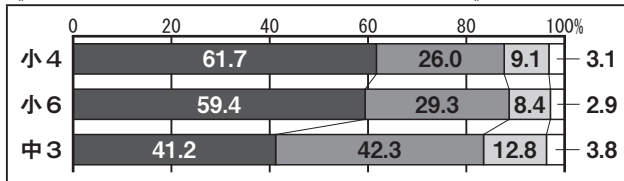
《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



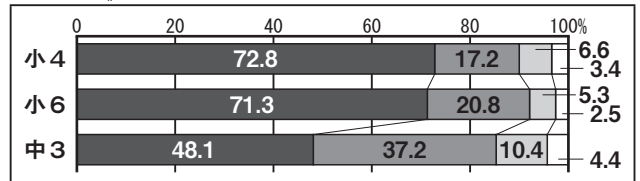
《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



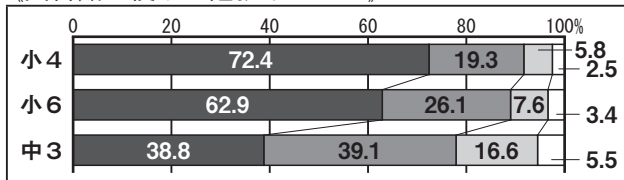
《少ない人数やグループで勉強すること》



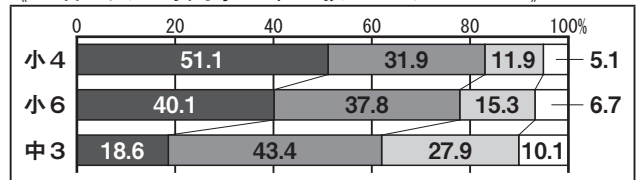
《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



《図書館を使って勉強すること》



《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

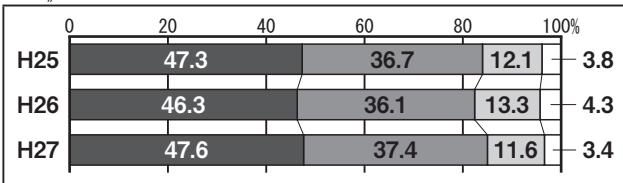


- ・《自分の考えを發表したり話し合ったりすること》が「好き」「どちらかというとき好き」と答えた中3の生徒は、26年度より4.3ポイント増加しているが、〈学年間比較〉で見ると小4より23.8ポイント低く、依然として学年間の差は大きい。

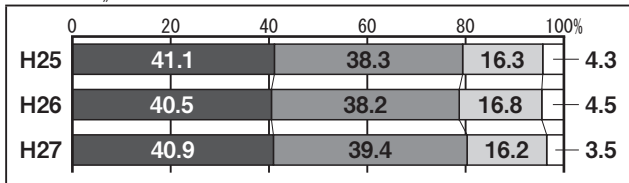
### 3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

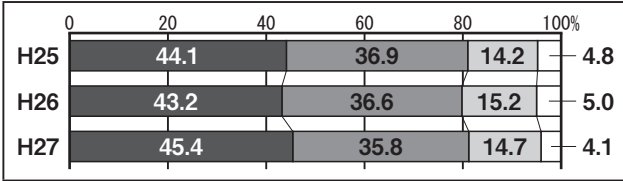
《新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている》



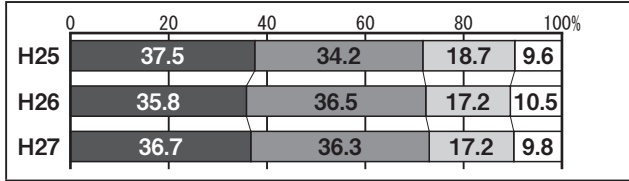
《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》



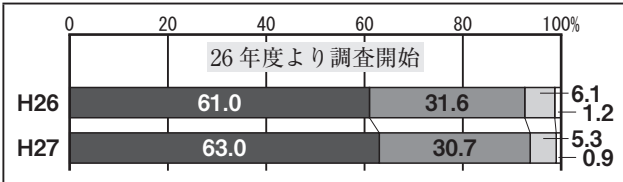
《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》



《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》



《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》

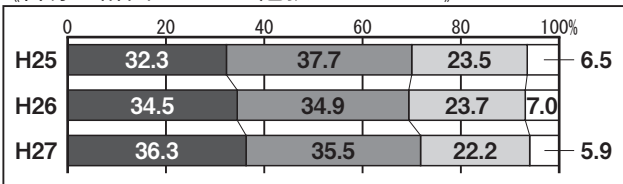


・《新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている》《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う》《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、85.0%、80.3%、81.2%、73.0%であり、26年度より0.7～2.6ポイント増加し、調査開始以来最も高い。

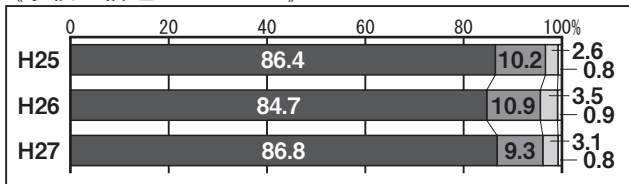
### 4 家で次のようなことをしていますか。

している
  どちらかといえばしている
  あまりしていない
  全くしていない

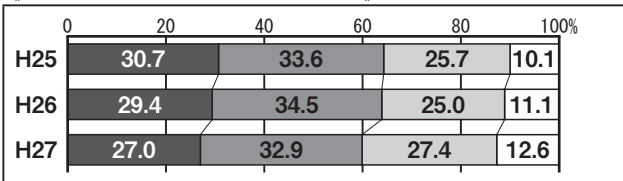
《自分で計画を立てて勉強をしている》



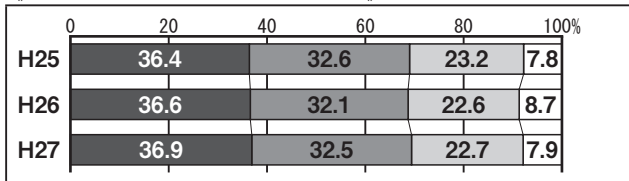
《学校の宿題をしている》



《学校の授業の予習をしている》



《学校の授業の復習をしている》

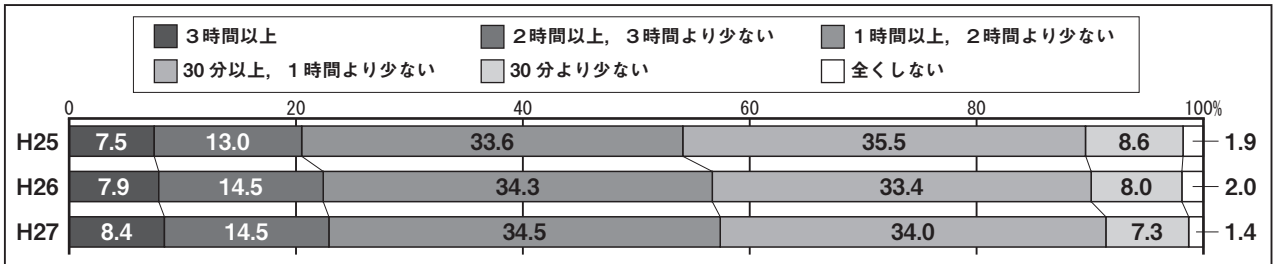


・《自分で計画を立てて勉強をしている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、71.8%であり、26年度より2.4ポイント増加し、調査開始以来最も高い。  
 ・《学校の授業の予習をしている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、59.9%であり、26年度より4.0ポイント減少している。

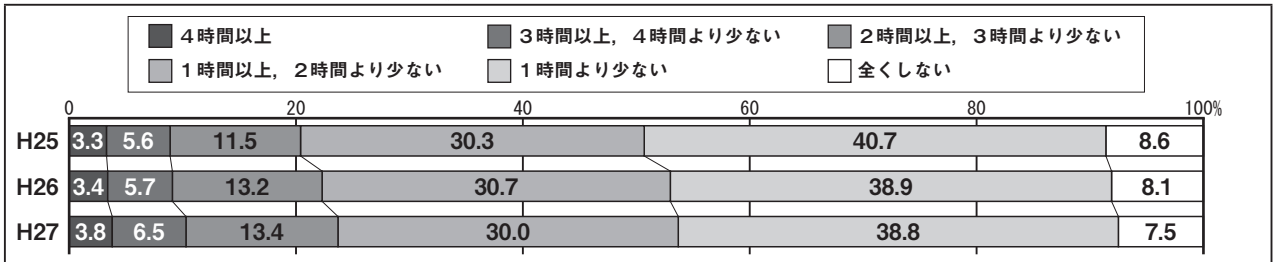
# 5

1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

《ふだん（月曜日から金曜日）》



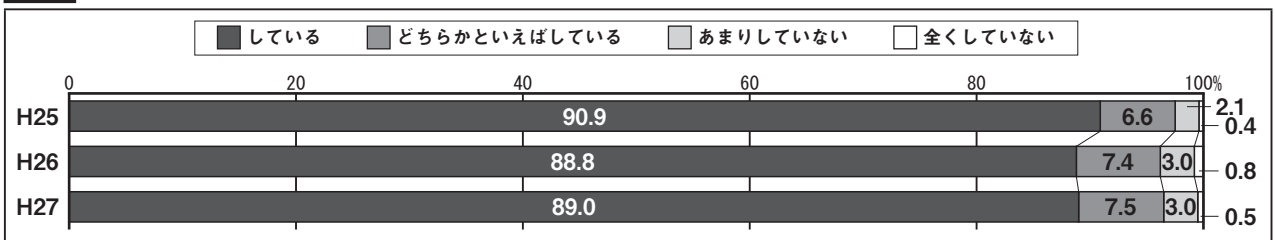
《土曜日や日曜日など学校が休みの日》



- ・家庭学習時間について、平日に1時間以上勉強すると答えた児童の割合は、合わせて57.4%、30分以上勉強すると答えた児童の割合は、91.4%であり、調査開始以来最も高い。
- ・土・日曜日に1時間以上勉強すると答えた児童の割合は、53.7%と26年度より0.7ポイント増加して調査開始以来最も高いが、平日に1時間以上勉強する児童の割合より低い。

# 6

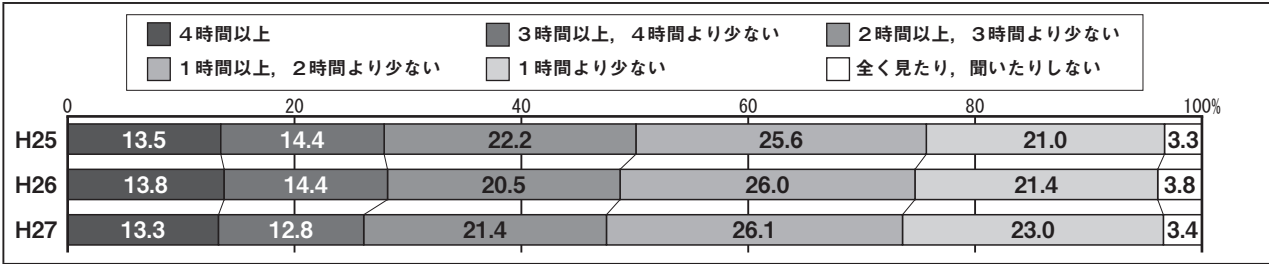
朝食を毎日食べていますか。



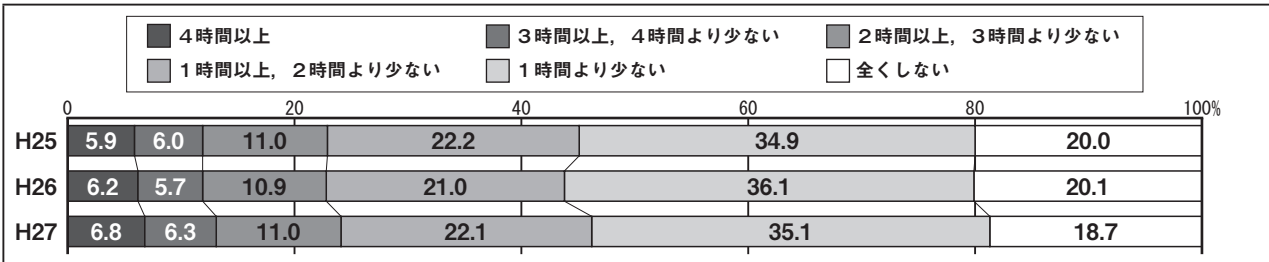
- ・《朝食を毎日食べている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、96.5%であり、これまでと同様に高い。

# 7

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVD を見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）》

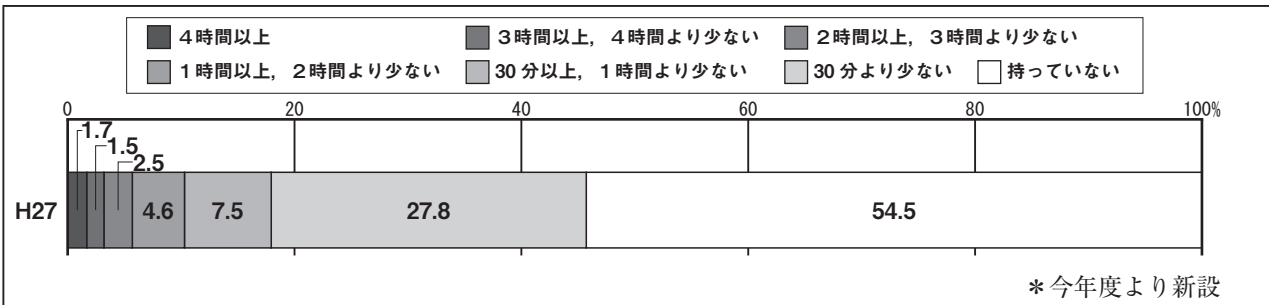


《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。》



- ・ 普段のテレビ等の視聴時間について、2時間以上と答えた児童の割合は、合わせて47.5%と調査開始以来最も低い。
- ・ 普段のテレビゲーム等の使用時間について、2時間以上と答えた児童の割合は、合わせて24.1%と調査開始以来最も高い。

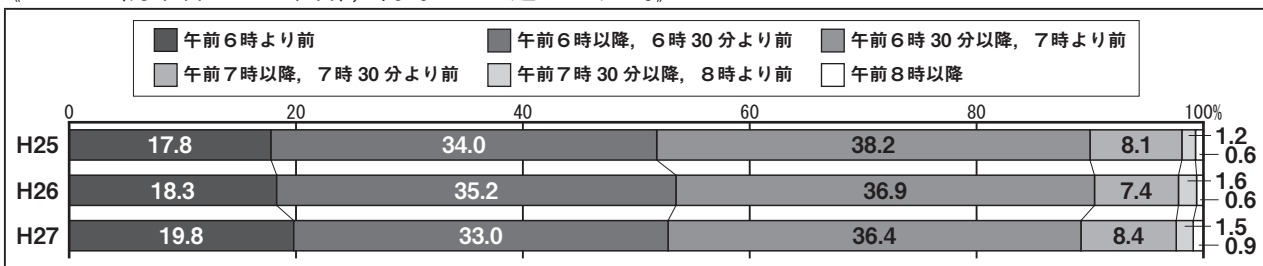
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



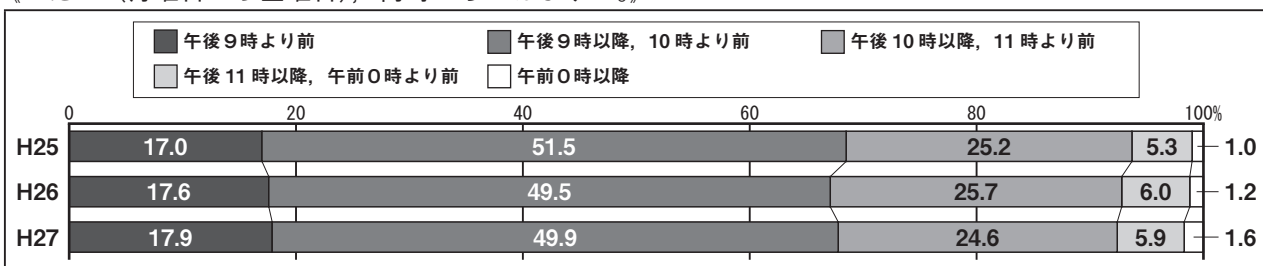
- ・ 普段、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを「30分以上している」と答えた児童の割合は、17.8%である。

# 8

《ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。》



《ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろにねますか。》



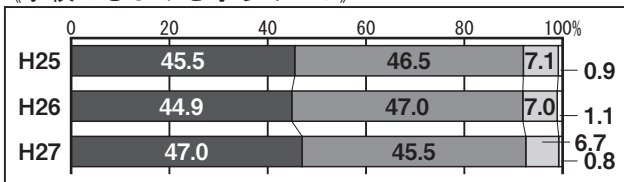
- ・ 普段の起床時刻について、午前7時より前に起きる児童の割合は、合わせて89.2%であり、26年度と同程度である。
- ・ 普段の就寝時刻について、午後10時より前に寝る児童の割合は、合わせて67.8%であり、26年度と同程度である。

# 9

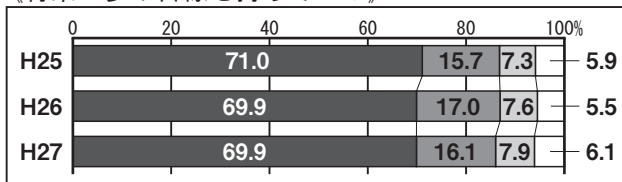
次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。



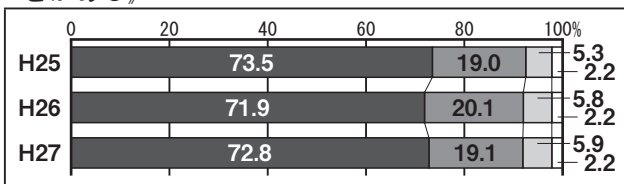
《学校のきまりを守っている》



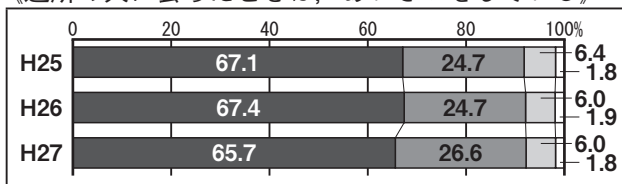
《将来の夢や目標を持っている》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



《近所の人に出会ったときは、あいさつをしている》



- ・ 《将来の夢や目標を持っている》《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》《近所の人に出会ったときは、あいさつをしている》について、それぞれ全体の約7割の児童が「あてはまる」と答えしており、これまでと同様に高い。



## 2 学習・生活状況と正答率との関係

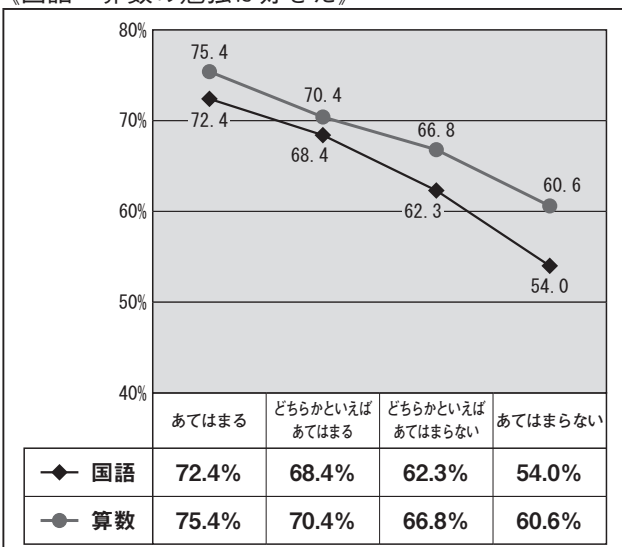
○小4児童の学習・生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
- ・課題について、自分の考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強することが好きだ。
- ・算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。
- ・ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。
- ・学校の宿題をしている。
- ・学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくまない）と話をしている。

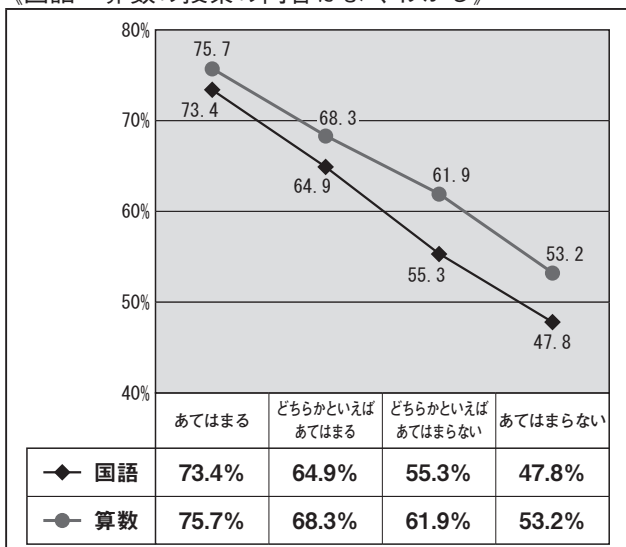
○小4児童の各教科の正答率や学習・生活状況に関する項目の関係には、次のような傾向が見られた。

- ・これまでと同様に、国語と算数の正答率は相互に関連が強い。
- ・各教科の勉強が好きという項目と授業内容がよく分かるという項目の回答は、関連がある。

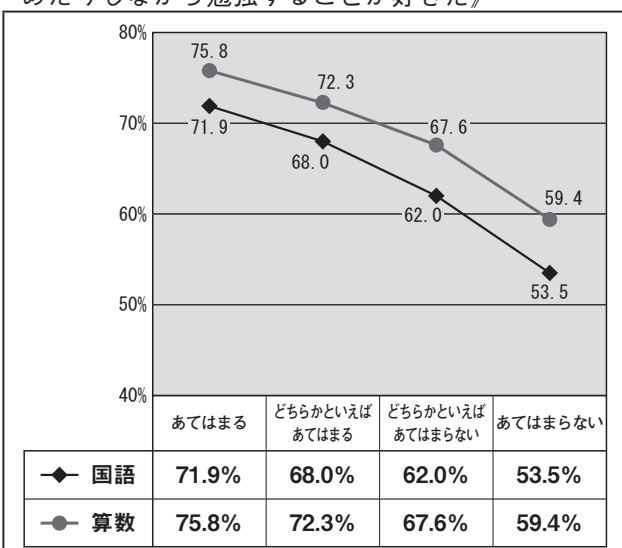
《国語・算数の勉強は好きだ》



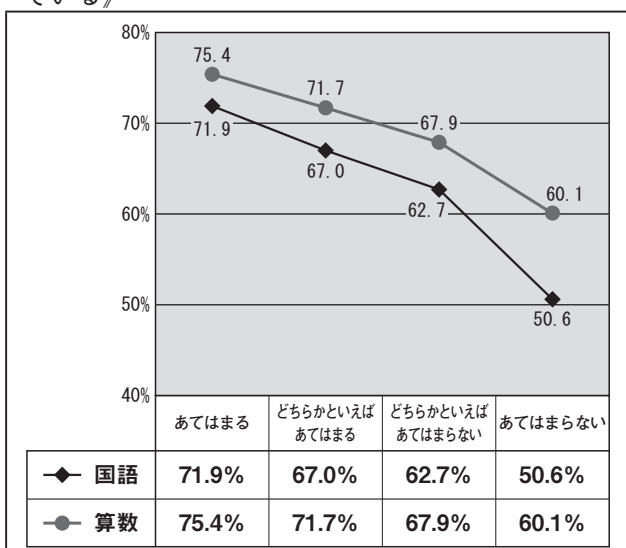
《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



《課題について、自分の考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強することが好きだ》

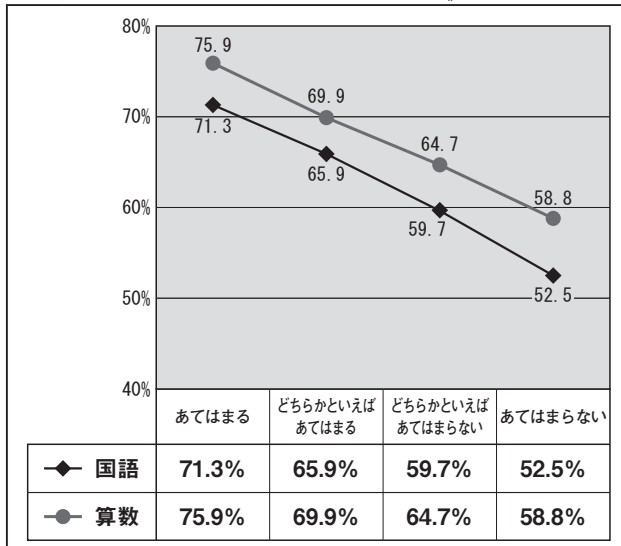


《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》

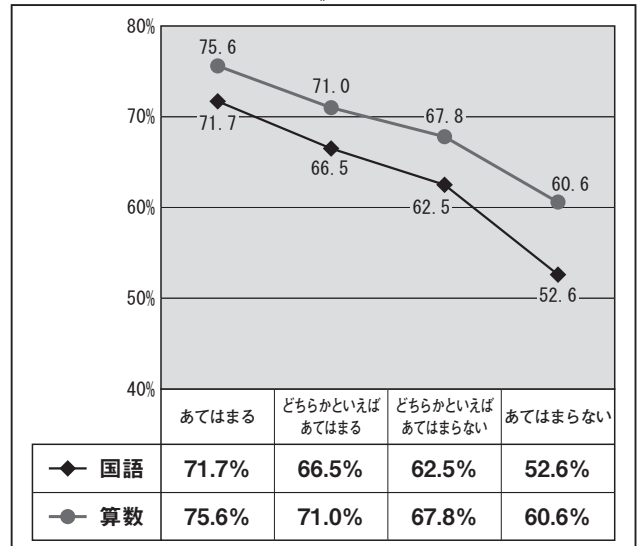




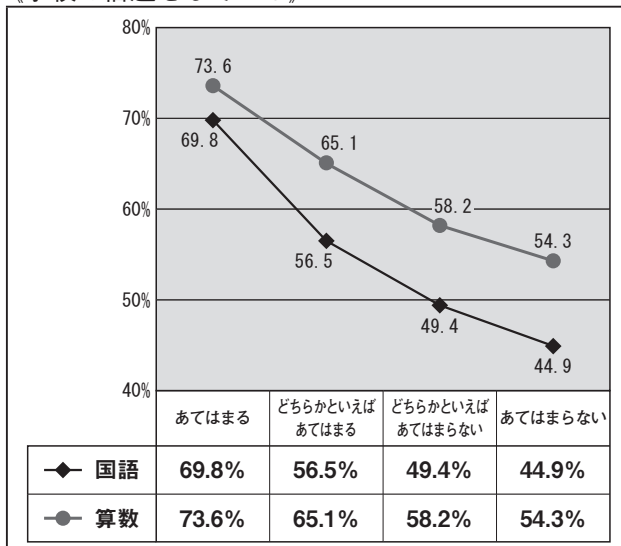
《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている》



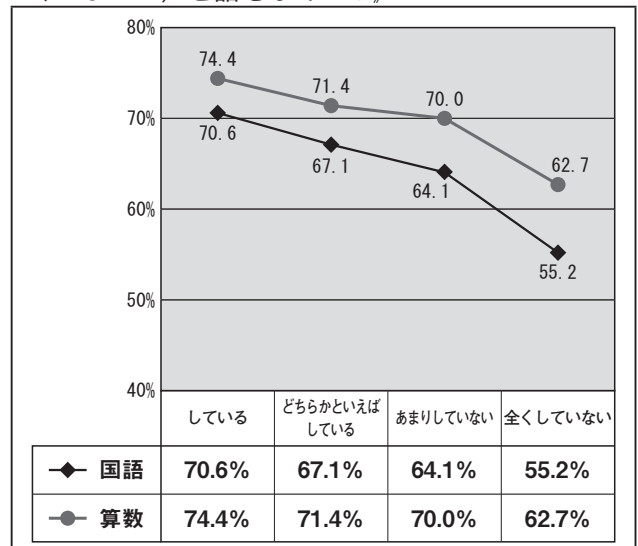
《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》



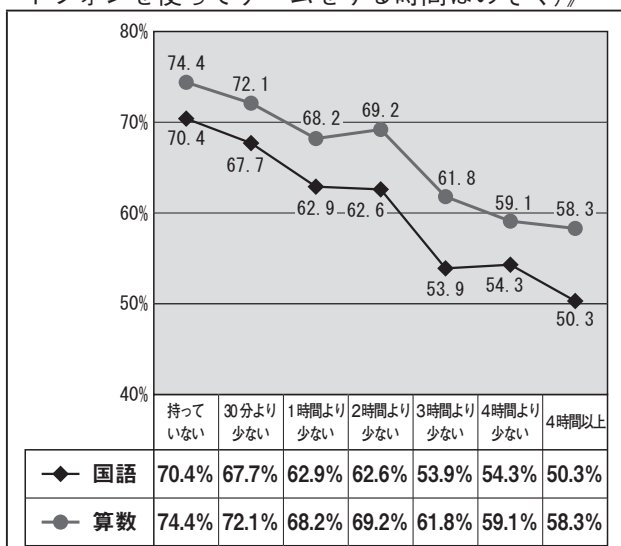
《学校の宿題をしている》



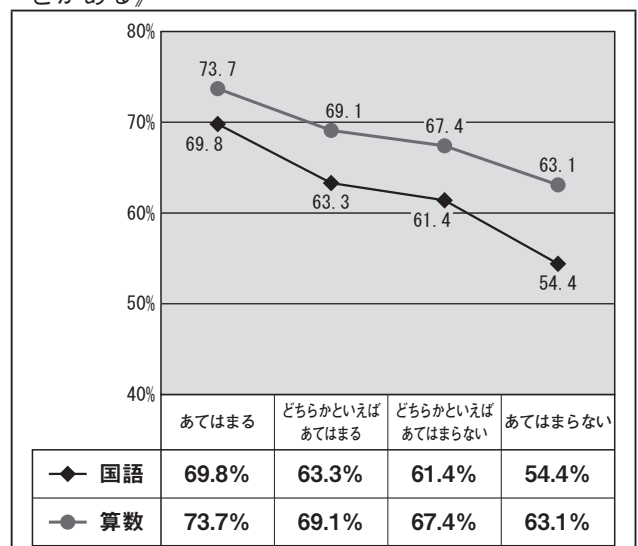
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はくみません）と話をしている》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく）》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



### 3 教員の調査結果

学力の重要な要素に関して、それぞれの要素に関する指導を行っている教員の割合は概ね90%以上と高く、学力向上の意識は高い。中でも、小学校では基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ること、中学校では学習意欲の向上を図る工夫が最も高い。

#### 学びの指針 1・2

- 「考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている」教員の割合は、小学校では92.9%とこれまでと同様に高い。中学校では26年度より3.2ポイント増加しており、指導改善の意識が見られる。
- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校で96.5%、中学校で95.8%であり、これまでと同様に高い。

#### 学びの指針 6

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設定している」教員の割合は、小学校で96.9%、中学校で92.6%であり、これまでと同様に高い。

#### 学びの指針 11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は、小学校で94.6%、中学校で89.2%であり、これまでと同様に高い。「よくしている」と答えた教員が小学校で32.0%、中学校で21.8%であり、26年度よりそれぞれ1.4ポイント、3.4ポイント増加しており、学力向上に向け、学校全体で見通しを持って取り組もうとしているといえる。
- 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている」教員の割合は、80%台にとどまっているものの、「授業の冒頭で目標を児童生徒に示している」教員の割合は、96%以上と高く、指導改善を進める体制づくりが進んできているといえる。

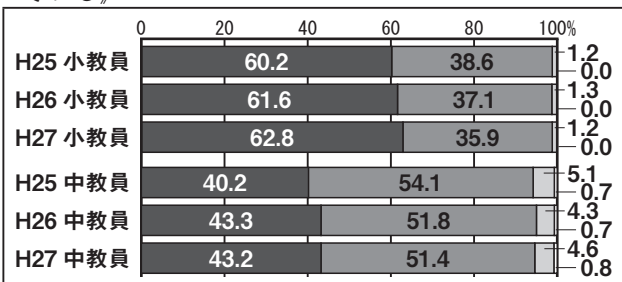
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

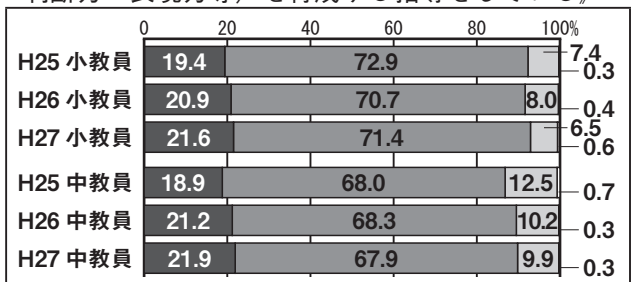


#### 【学力の重要な要素に関すること】

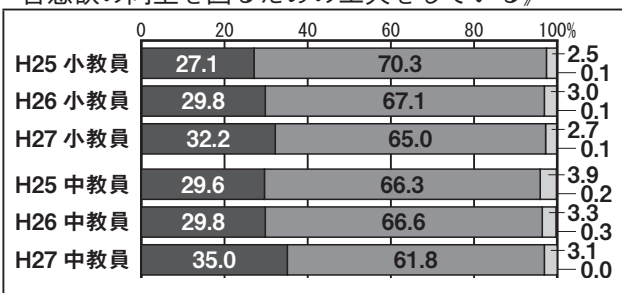
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



#### ＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

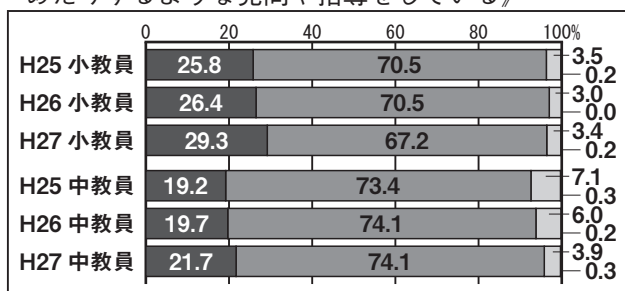
・《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》について、「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は98.7%であり、26年度と同様に高い。

#### ＜26年度と比べて上昇した項目＞

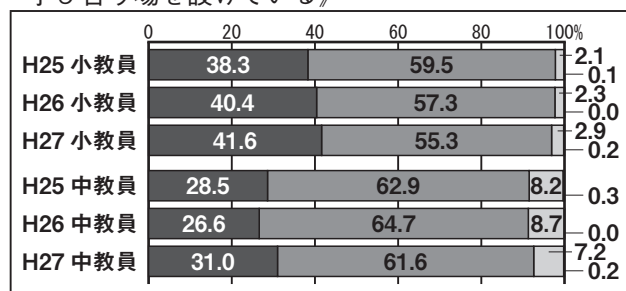
・《学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、「よくしている」と答えた中学校教員の割合は、26年度より5.2ポイント増加している。

## 【教科等に関すること】

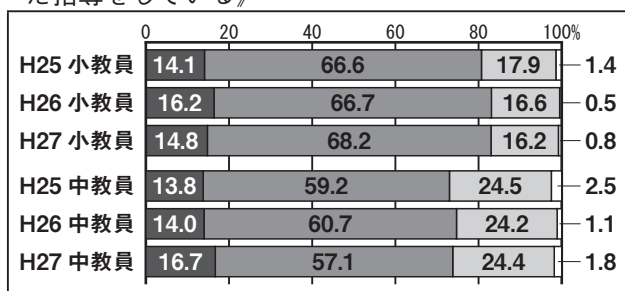
《児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている》



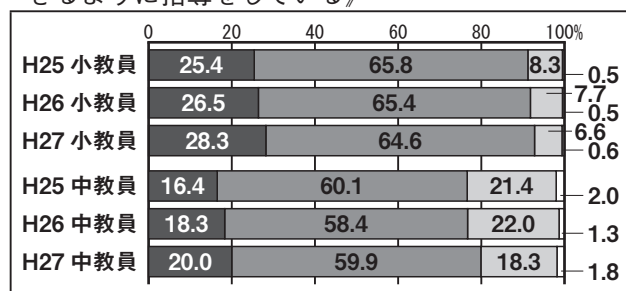
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている》



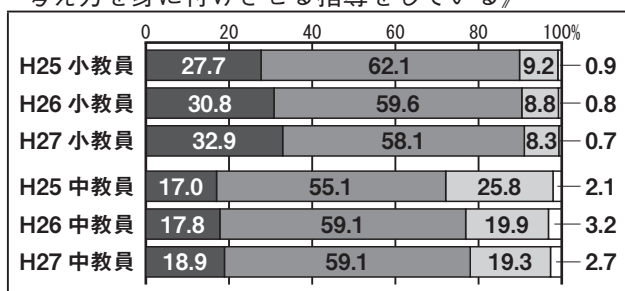
《記録，要約，説明，論述などの言語活動を重視した指導をしている》



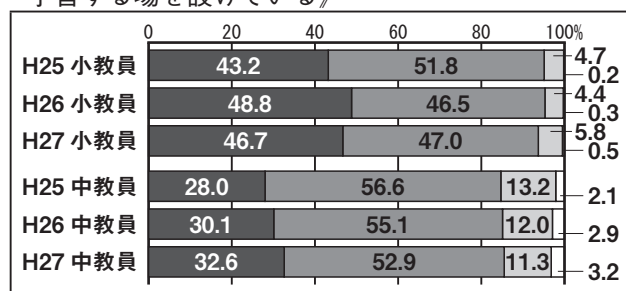
《考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるように指導をしている》



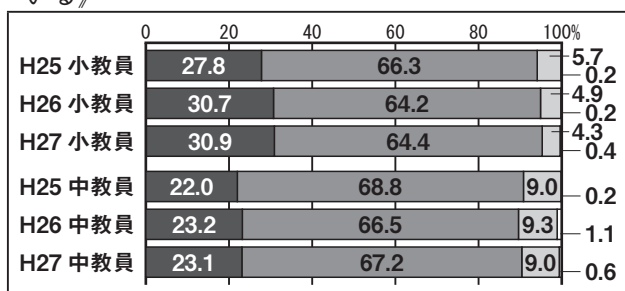
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して，考え方を身に付けさせる指導をしている》



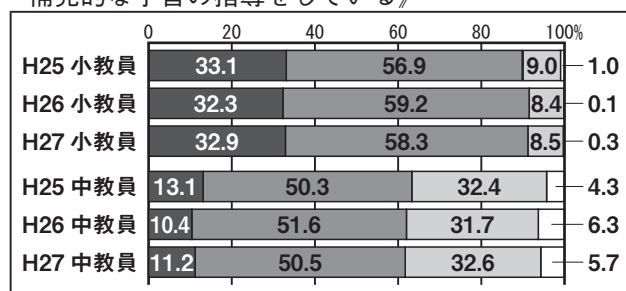
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



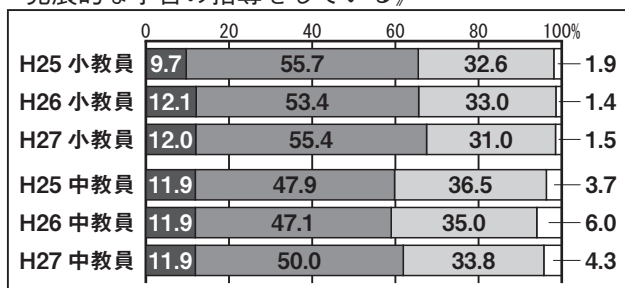
《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》



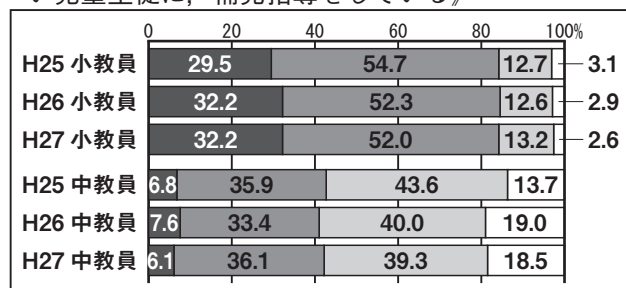
《個に応じた指導として，習熟の遅い児童生徒に，補充的な学習の指導をしている》



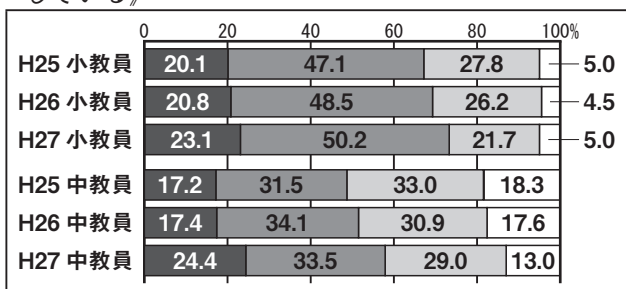
《個に応じた指導として，習熟の早い児童生徒に，発展的な学習の指導をしている》



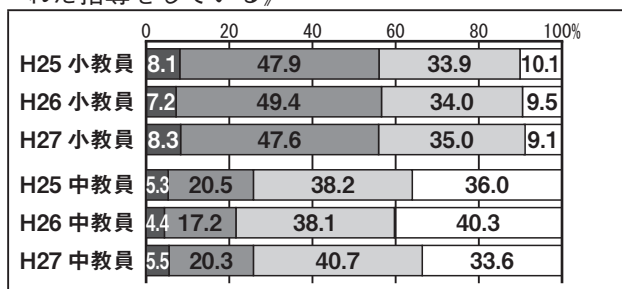
《休み時間や放課後など授業時間以外に，習熟の遅い児童生徒に，補充指導をしている》



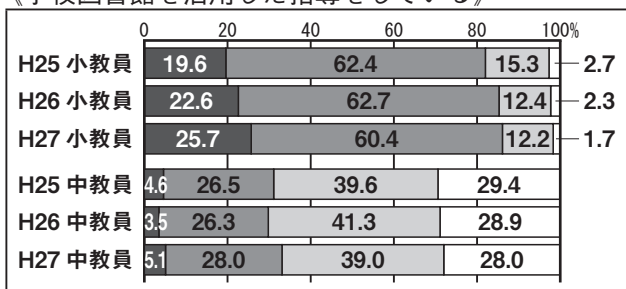
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



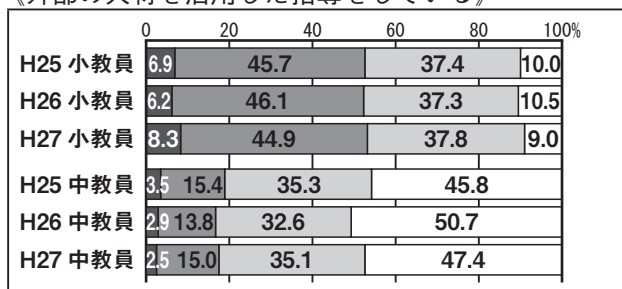
《児童生徒がコンピュータを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



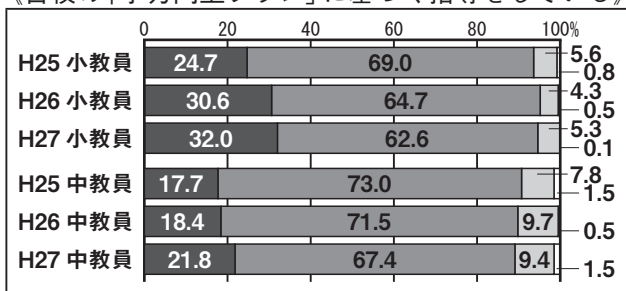
《学校図書館を活用した指導をしている》



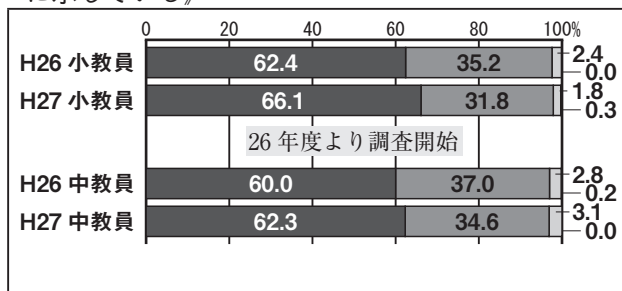
《外部の人材を活用した指導をしている》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



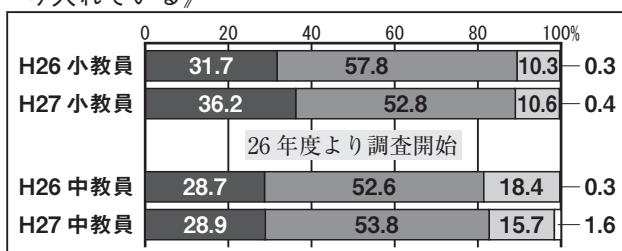
《授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、小学校で96.5～96.9%、中学校で92.6～95.8%と、これまでと同様に高い。

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



＜26年度と比べて上昇した項目＞

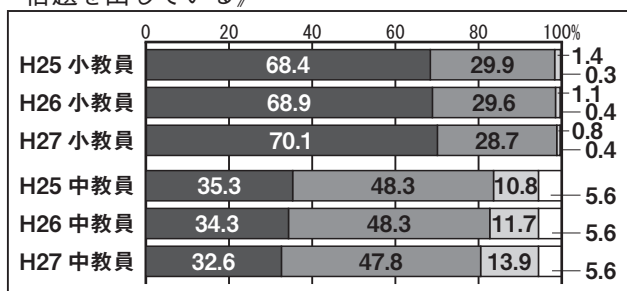
- ・《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、26年度より小学校で4.0ポイント、中学校で6.4ポイント、それぞれ増加している。
- ・《児童生徒がコンピュータを使う学習活動を取り入れた指導をしている》について、「よくしている」「している」と答えた中学校教員の割合は、26年度より4.2ポイント増加している。
- ・《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》について、「よくしている」「している」と答えた中学校教員の割合は、26年度より3.2ポイント増加している。

＜その他、留意する項目＞

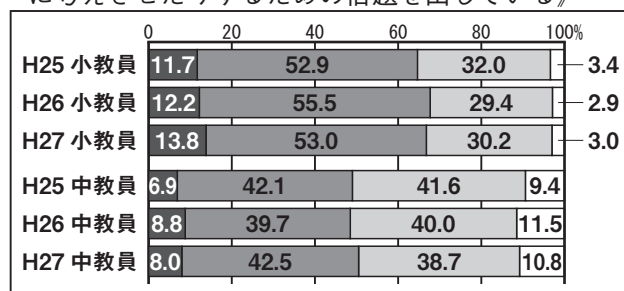
- ・《授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、小学校で97.9%、中学校で96.9%と高い。また、《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、「よくしている」と答えた教員の割合は、26年度より小学校で4.5ポイント、中学校で0.2ポイント増加しているが、いずれも全体の約3割程度にとどまっている。

## 【家庭学習に関すること】

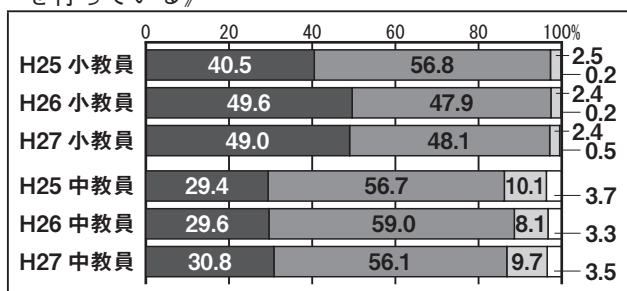
《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》



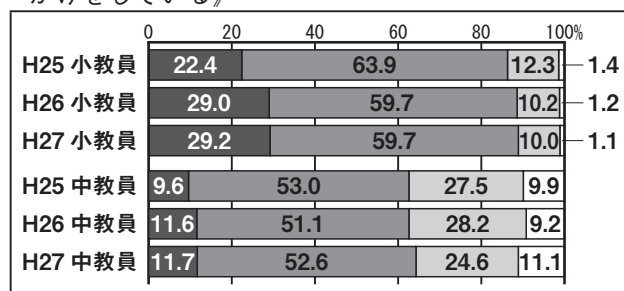
《授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするための宿題を出している》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている》



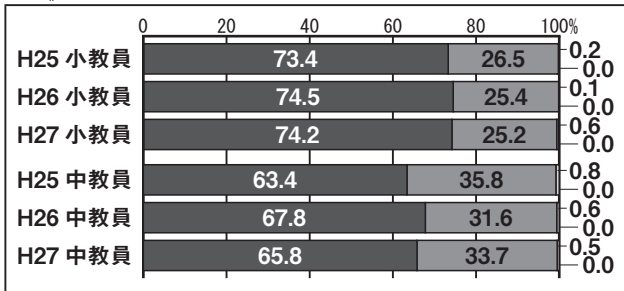
### <肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は、97.1～98.8%あり、これまでと同様に高い。

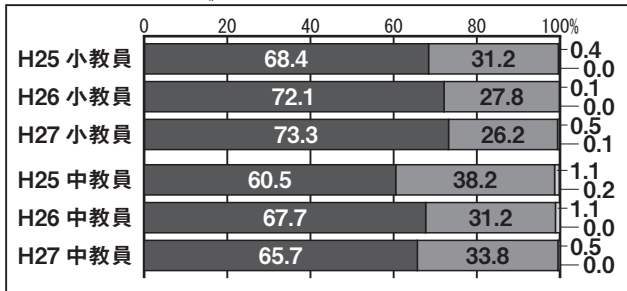


## 【学習規律等に関すること】

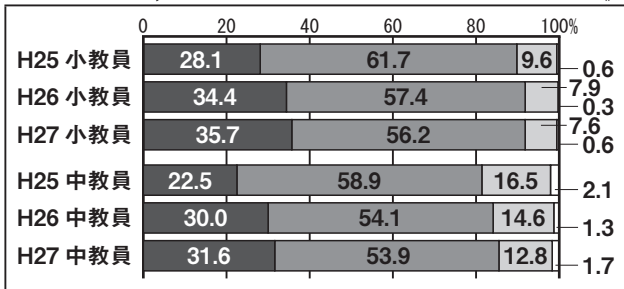
《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》



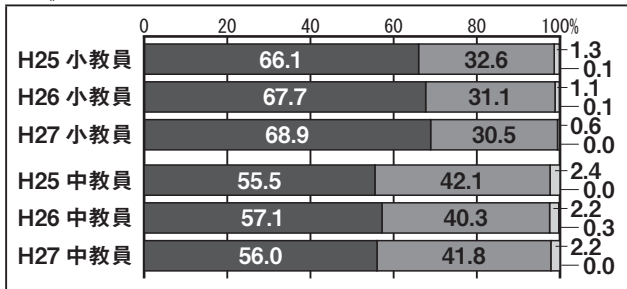
《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



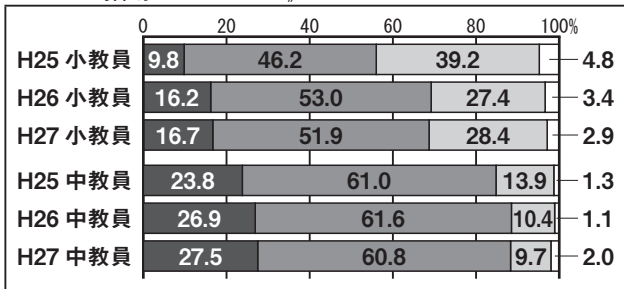
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



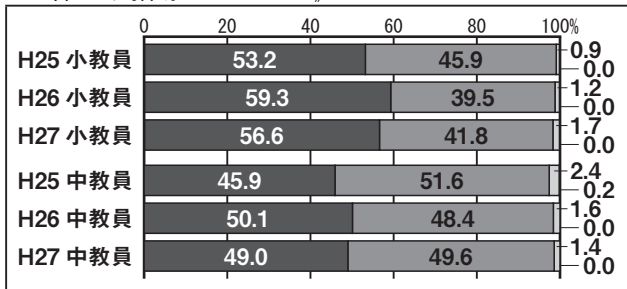
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



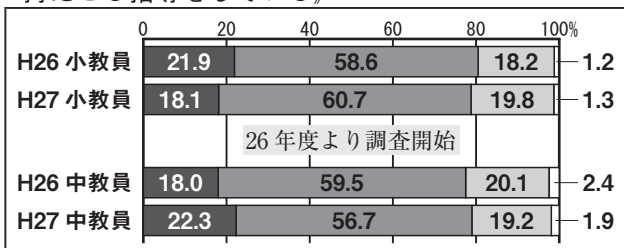
《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



《地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》



### <肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導している》について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、小学校で99.4～99.5%、中学校で97.8～99.5%と、これまでと同様に高い。
- ・《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、小学校で98.4%、中学校で98.6%とこれまでと同様に高い。

### <26年度と比べて上昇した項目>

- ・《地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》について、「よくしている」と答えた中学校教員の割合は、26年度より4.3ポイント増加している。





平成 27 年度

「基礎学力調査」—分析・考察—

平成 27 年 10 月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒 920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL.076-225-1827

e-mail : [gakusi@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:gakusi@pref.ishikawa.lg.jp)